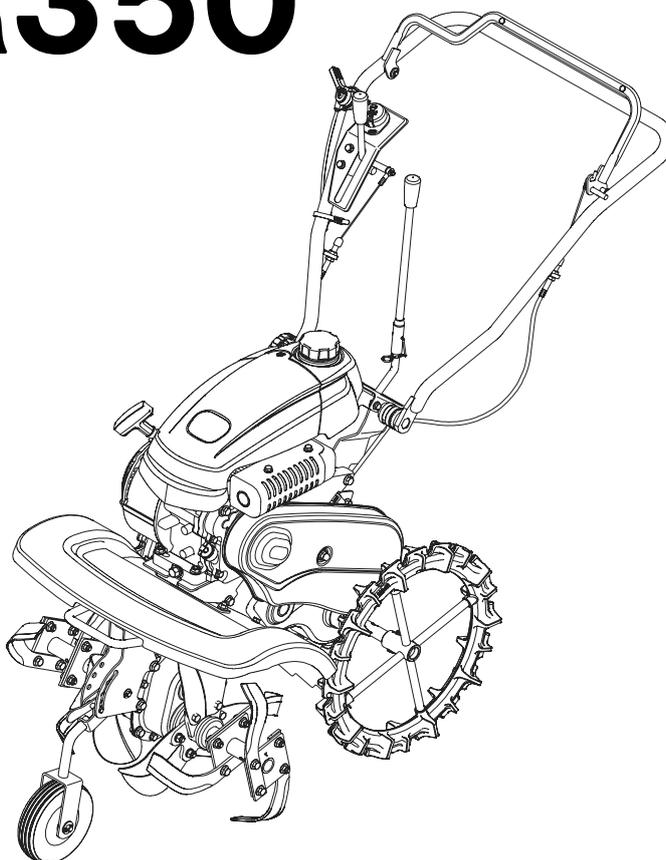
ヘルパー

ロータリ専用機

取扱説明書

KHR350M
KHR350

ご注意

◆この取扱説明書をよくお読みになり、記載内容を十分理解してください。
◆記載内容を十分理解してから、耕うん機の取扱いを開始してください。
◆この取扱説明書を読み終えた後も、必要な時にすぐ参照できるよう、
耕うん機の近くに保管してください。

は　じ　め　に

このたびは本製品をお買い上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され、お買いあげの製品がすぐれた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためにこの冊子をご活用ください。また、お読みになった後も製品に近接して保存し、わからないことがあったときには取り出してお読みください。なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お買い上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 安　全　第　一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた ⚠ の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、⚠ 表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの購入先に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱上の注意事項について次のように表示しています。

⚠ **危険**　その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを表示します。

⚠ **警告**　その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを表示します。

⚠ **注意**　その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれがあるものを表示します。

重要　注意事項を守らないと損傷や故障のおそれがあります。

補足　その他、使用上役立つ補足説明をしています。

目次

安全に作業するために

サービスと保証について

1．もうおぼえられましたか？

2．作業前にこれだけチェック

3．このように運転します

4．このように作業します

5．こんなときどうする？

6．作業が終わったら

7．ロータリ専用機を運搬するとき

付表

トラブルと処置

安全に作業するために　必ず読んでください

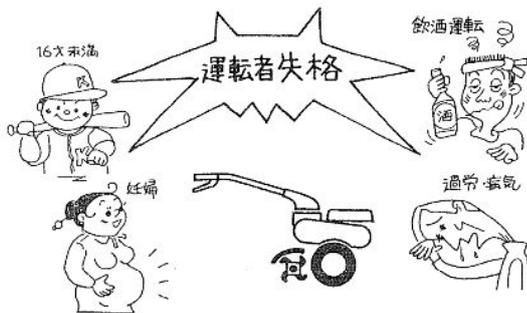
本機をご使用になる前に、必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも、本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取り上げています。

1.運転する前に

■使用する人は

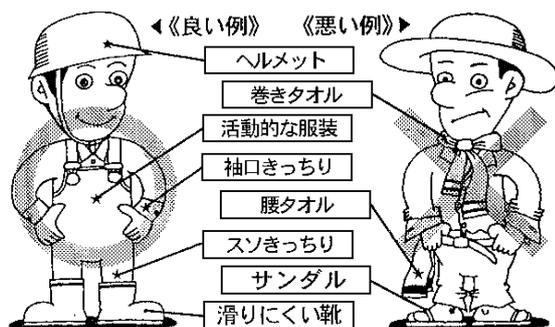
次の事項に該当する場合は、機械を使用しないでください。

●本書およびラベルの内容が理解できない人
●視力不足等のため表示内容が読めない人
●飲酒時や体調が悪い時、または妊娠中の人
●16歳未満の人

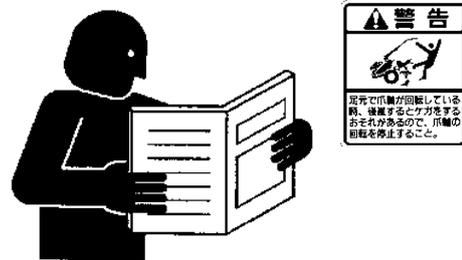
➡ 誤操作しやすく、思わぬ事故の原因になります。

■使用する人の服装は

作業に適した服装を着用してください。

➡ 機械に巻込まれたり、滑って転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

作業時の服装

■他人に貸すときは

●事前に運転のしかたを教え、〔**取扱説明書**〕を必ず読んでもらってください。
●本書およびラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。

➡ 借りた人が、機械の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。

■周囲への注意

●子供・ペットを近づけないでください。
●本機に人や物を乗せたり、人を近くに寄せないでください。
●共同作業者がいるときは、互いに注意してください。

➡ 思わぬ事故を引き起こす原因となります。

■給油・注油するとき【火気厳禁】

●燃料の給油・各部への注油時は必ずエンジンを停止し、規定量以上入れないでください。
●エンジン回転中やエンジンが熱い間は火災のおそれがあるので給油はしないでください。
●煙草を吸ったり火気を近づけないでください。
●燃料補給後、給油キャップはもれないようにしっかり締めてください。
●こぼれた燃料はふき取ってください。

➡ 燃料などに引火し、ヤケドや火災の原因となります。

2. 始動するとき

■周囲への注意

始動する前に周囲を確認し、本機の周囲から人を遠ざけてください。

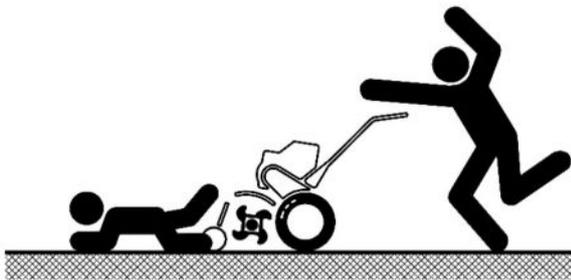
➡ 思わぬ事故を引き起こす原因となります。

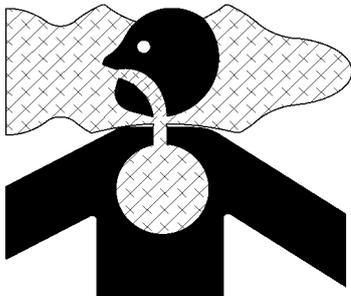
■エンジンを回すとき

●必ず本機の主クラッチレバーの〔**切**〕、変速レバーの〔**中立**〕を確認してください。

●足場が不安定な場所での始動は行わないでください。やむをえない場合は本機を固定し、水平な状態で行ってください。

●リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか、突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。

➡ 変速やクラッチが入っていると機械が急に動き出し、人身事故や傷害事故の原因となる場合があります。

■排気ガスに注意

●屋内やハウス内での始動は排気ガスが充満しないように充分に換気を行ってください。

➡ 排気ガス中毒で気分が悪くなったり、酸欠で脳障害になったり、死亡することがあります。

3. 移動、作業するとき

■発進するとき

●速い速度での走行は十分注意してください。

●車速の最低速で主クラッチレバーの〔**入**〕はゆっくり、〔**切**〕はすばやくの操作を習熟した上で使用してください。

●小走りになるようなスピードを出したり、急発進、急旋回はしないでください。

➡ 傷害事故や転倒事故を引き起こす原因となります。

■移動するとき

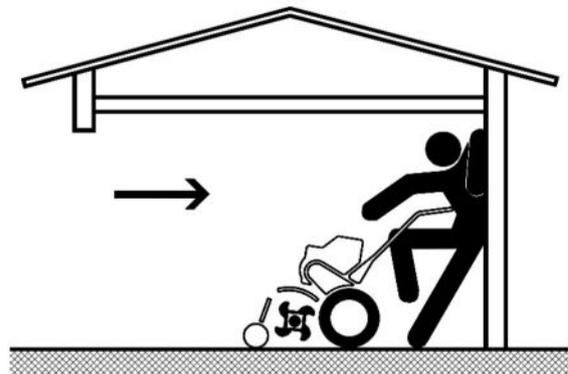
●移動する際は、必ずロータリの回転を止めてください。

➡ 傷害事故を引き起こす原因となります。

■ハウス、車庫等での移動

●後進する際は、エンジンの回転数を下げて背後の障害物の位置を確認し、ゆっくりと行なってください。

●屋根の低いハウス内や車の荷台では、エンジンを停止して手で引き出してください。

➡ 後進するときは車輪の回転でハンドルがはね上がります。

■運搬・積降ろしするとき

●積込み・積降ろしは、平坦で交通の邪魔にならない安全な場所で行ってください。

●アユミ板はすべり止めのついた、機体重量に耐えるもので、トラックの荷台高さ〔1〕に対し、アユミ板の長さ〔**4以上**〕のものを使用し、確実に固定してください。

➡ アユミ板が外れたりして転倒事故を起こすことがあります。

●足元に注意し、車速は最低速で、上りは〔**前進**〕下り〔**後進**〕で行い、途中で主クラッチを切ったり、変速操作をしないでください。

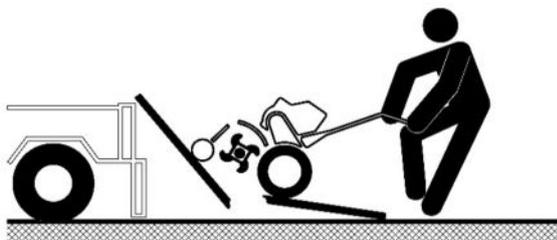
●必ずデフロックレバーは〔**直進**〕の位置にしてください。

➡ バランスがくずれて転倒事故を引き起こすことがあります。

●車などで運搬するときは、必ず荷台に天井がない車を使用してください。

➡ 本機と障害物の間に挟まれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。

●燃料コックレバーを必ず〔**停止**〕にし、給油キャップはもれないようにしっかり締めてください。

➡ 燃料もれが発生し、火災や爆発のおそれがあります。

■坂道を移動するとき

●坂道、ほ場の出入り、畦の乗越え等の途中で主クラッチを〔**切**〕ったり、変速を〔**中立**〕にしないでください。

●変速操作は、機械が平坦な場所以外では使用しないでください。

●坂道や凹凸、カーブの多い路上では必ず低速運転してください。

➡ 機体が思わぬ方向に進んだり、転倒事故を引き起こすことがあります。

■耕耘作業をするとき

●いつでも主クラッチが〔切〕れる姿勢で運転してください。

➡ 作業開始時や作業中、機体が思わぬ方向に飛出し、転倒や人身事故を引き起こすことがあります。

●作業前にほ場の状態をよく確認して、石・材木・針金・空カン・空ビンなどを取除いてください。

➡ 回転している爪に異物が当たると強い力で異物が飛び散り、傷害事故を引き起こすことがあります。

●作業前・作業後には機械の整備・点検を行ってください。

●周辺の枯れ草やたい積ワラなどは作業前に取除くか移動させてください。

➡ エンジン単体・マフラ周辺・配線部にワラくずなどがたまっていると、火災の原因になります。

●ハウスや小屋の中など障害物がある場所では、周囲をよく確認してから作業してください。特に後進・旋回するときは、エンジン回転を下げハンドルをしっかり押さえて行ってください。

➡ 本機と障害物の間に挟まれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。

●あぜ越えは低速であぜに対して直角に出入りしてください。また、あぜが高いときはアユミ板を使用してください。

●急傾斜地では作業しないでください。

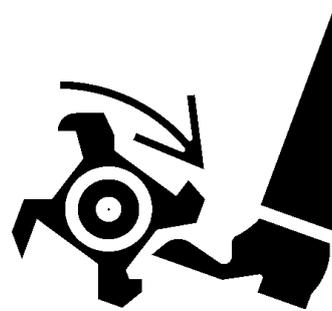
➡ バランスがくずれて転倒事故を引き起こすことがあります。

●ロータリ等に巻付いた草や土を取除くときや、爪を交換するとき、耕深を調節する（前輪を操作する）ときは、平坦な場所でエンジンを停止して各部の動きが止まってから行ってください。

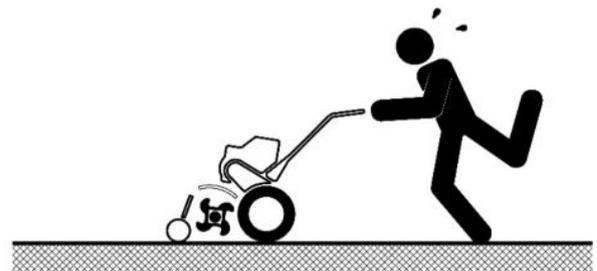
➡ 巻込まれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。

■回転している爪に注意

●ハンドル部を持ち上げ旋回するとき、足元および周囲に十分注意してください。

➡ 巻込まれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。

■ほ場が硬いとき

●硬いほ場では車速を遅めにして、耕深も浅めで作業を行ってください。

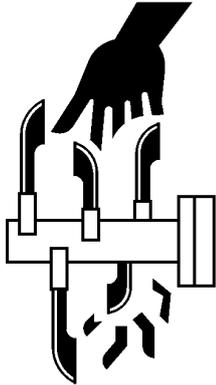
➡ 機体が急に飛び出したり、運転者側に跳ね戻るなど傷害事故を引き起こすことがあります。

■機械から離れるとき

●エンジンは必ず停止させ、平坦で安定したところに駐停車してください。
（やむなく傾斜地に止めるときは輪止をしてください。）

4. 作業が終わったとき

■掃除をするとき

●車軸・爪軸(ロータリ)に巻付いた草・ワラ・泥土等を取り除くときは、必ずエンジンを停止してください。

➡ 巻込まれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。

5. 点検、整備をするとき

●点検・整備・アタッチメントの脱着などは、平坦な所に機械を安定させて、エンジンを止め、高温部が冷めてから行ってください。

➡ 機体が思わぬ方向に動き出したり、ヤケドの原因となります。

■カバー類は必ずつける

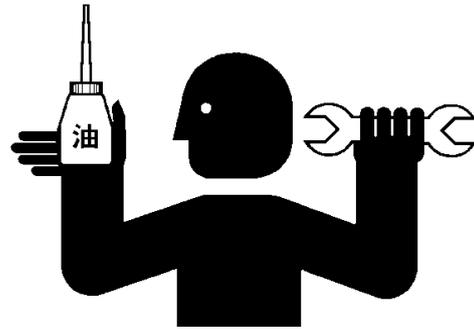
●ベルトカバーなどの防護カバーを取外すときは、必ずエンジンを停止してください。

●取外したカバー類は、元通り取付けてください。

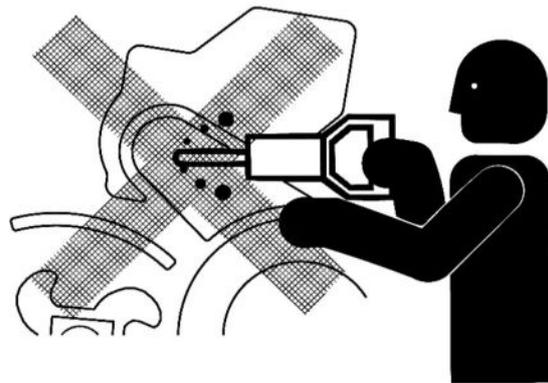
➡ 巻込まれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。

■１年毎の定期点検を

●１年毎に定期点検・整備を受け、特に燃料パイプや電気配線は、２年毎に交換して安全に作業できるようにしてください。

➡ 機械の整備不良により傷害事故などを引き起こすおそれがあります。

■機械の改造禁止

●機械を改造しないでください。

➡ 改造すると機械に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながるおそれがあります。

■格納するとき

●機体に保管用カバーをかけるときは、高温部が冷めてから行ってください。

●草・ワラ等可燃物があるところでの保管はしないでください。

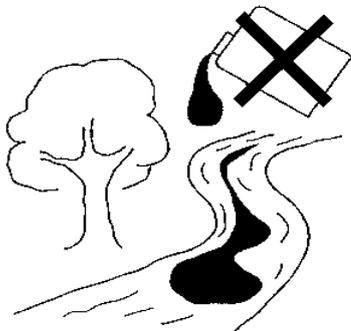
➡ 火災の原因となることがあります。

■廃棄物の処理について

●廃棄物をみだりに捨てたり、焼却しないでください。

●機械から廃液を抜く場合は容器に受けてください。地面へのたれ流しや河川・湖沼・海洋への投棄はしないでください。

●廃油・ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者に相談して、所定の規則に従って処理してください。

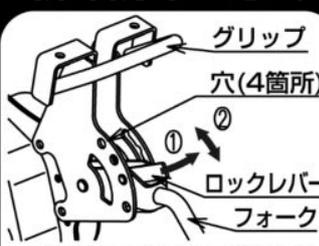
➡ 環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

■夜間作業の禁止について

●本機は夜間作業灯を装備していませんので、夜間作業はしないでください。思わぬ事故になるおそれがあります。

■公道走行の禁止について

●本機は、道路運送車両法の小型特殊自動車には該当しません。本機で公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは、トラックに積んで運搬してください。

表示ラベルと貼付け位置

① 品番 280050000505002
ﾗﾍﾞﾙ(ﾍﾞﾙﾄｶﾊﾞｰ)

③ 品番 011452372551000
ｹｲｺｸﾗﾍﾞﾙ(ﾛｰﾀﾘ)

② 品番 280050000510001
ﾗﾍﾞﾙ(ｺｳｼﾝﾁｮｳｾﾂ)

表示ラベルと貼付け位置

注　意

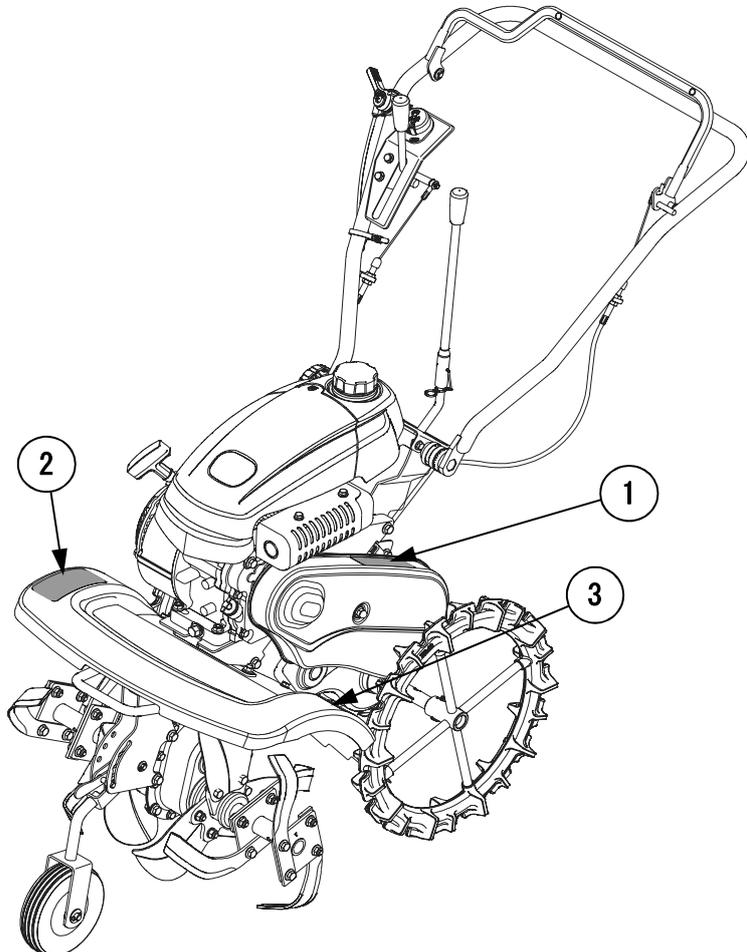
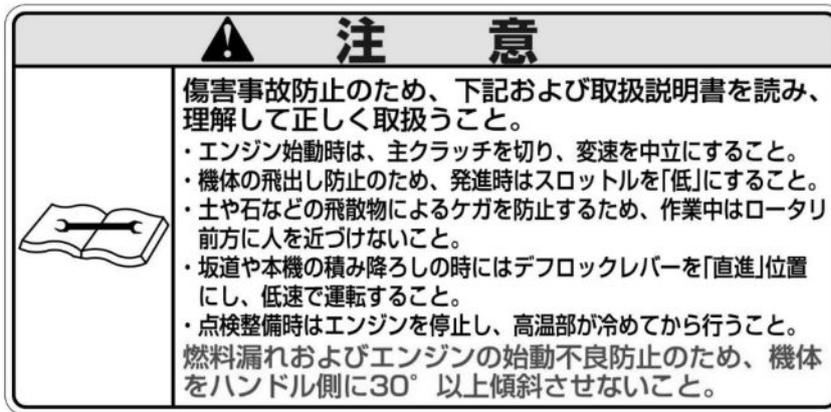
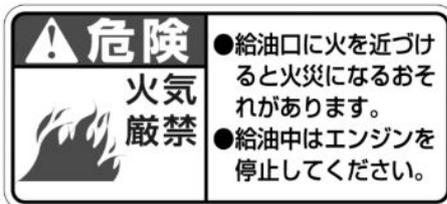
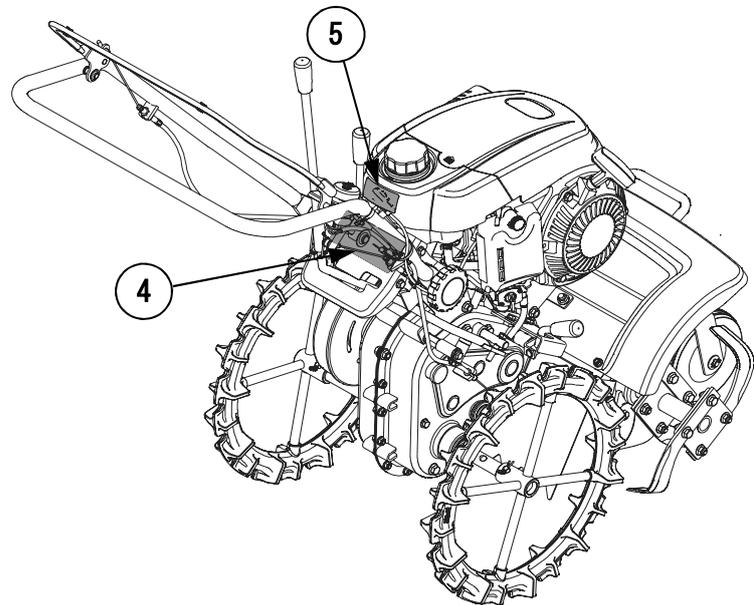
傷害事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。
- エンジン始動時は、主クラッチを切り、変速を中立にすること。
- 機体の飛出し防止のため、発進時はスロットルを「低」にすること。
- 土や石などの飛散物によるケガを防止するため、作業中はロータリ前方に人を近づけないこと。
- 坂道や本機の積み降ろしの時にはデフロックレバーを「直進」位置にし、低速で運転すること。
- 点検整備時はエンジンを停止し、高温部が冷めてから行うこと。

燃料漏れおよびエンジンの始動不良防止のため、機体をハンドル側に30°以上傾斜させないこと。

④ 品番 280050000506002
ﾗﾍﾞﾙ(ﾄﾘｱﾂｶｲ)

危険

火気厳禁

●給油口に火を近づけると火災になるおそれがあります。
●給油中はエンジンを停止してください。

⑤ 品番 280050000514002
ﾗﾍﾞﾙ(ｶﾞｿﾘﾝ、ｷｹﾝ)

表示ラベルの手入れ

●ラベルはいつもきれいにして傷つけないようにしてください。
　もしラベルが汚れている場合は、石鹸水で洗い、柔らかい布で拭いてください。
●高圧洗浄機で洗車すると、高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
●破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼替えてください。
●新しいラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全に拭取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。
●ラベルが貼付けされている部分を新部品と交換するときは、ラベルも交換してください。

サービスと保証について

この製品には、保証書が添付してありますので、ご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は、お買上いただいた購入先にそれぞれ〔ご相談窓口〕を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際　（１）型式名・販売型式名と車台番号
　　　　（２）エンジン番号

をあわせてご連絡ください。

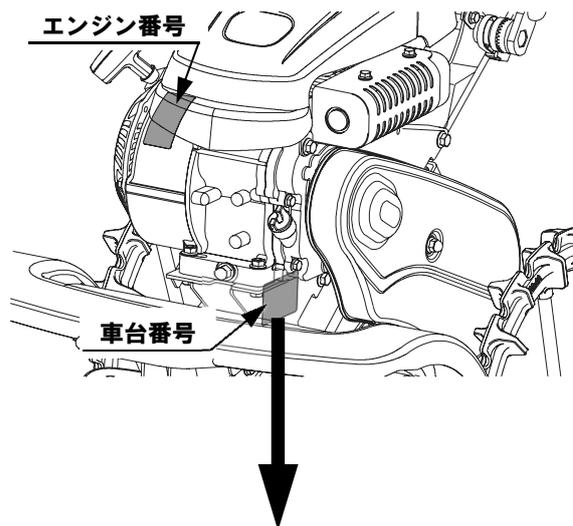
警　告

＊機械を改造しないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか、人身事故にもつながるおそれがあります。
改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。

■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後９年といたします。

ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

農業機械の種類		農用トラクター（歩行型）
型　式　名		ヘルパー KHR350M
区　　　分		
搭載機関	型　式　名	FJ100D
	連続定格出力	1.6kW(2.1PS)/3600rpm
製 造 番 号		
製造元：関東農機株式会社		

農業機械の種類		農用トラクター（歩行型）
型　式　名		ヘルパー KHR350
区　　　分		
搭載機関	型　式　名	FJ100D
	連続定格出力	1.6kW(2.1PS)/3600rpm
製 造 番 号		
製造元：関東農機株式会社		

 注　意

＊トレーラ走行は出来ません。
小型特殊自動車の認定を受けておりません。
一般公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。
一般公道を移動するときは、自動車（トラック）に積んでください。

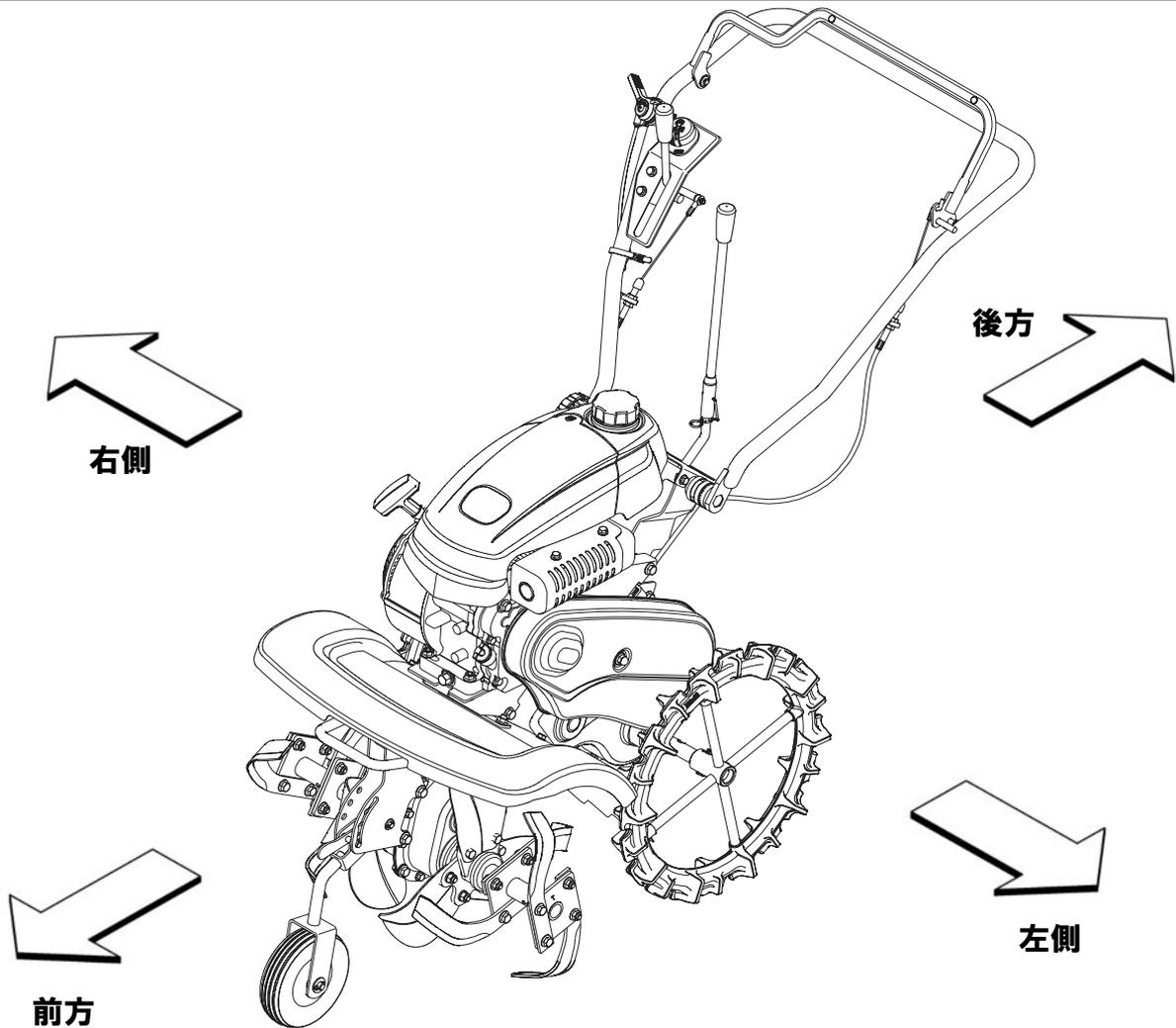
1. もうおぼえられましたか？　●各部の名称と装置の取扱い

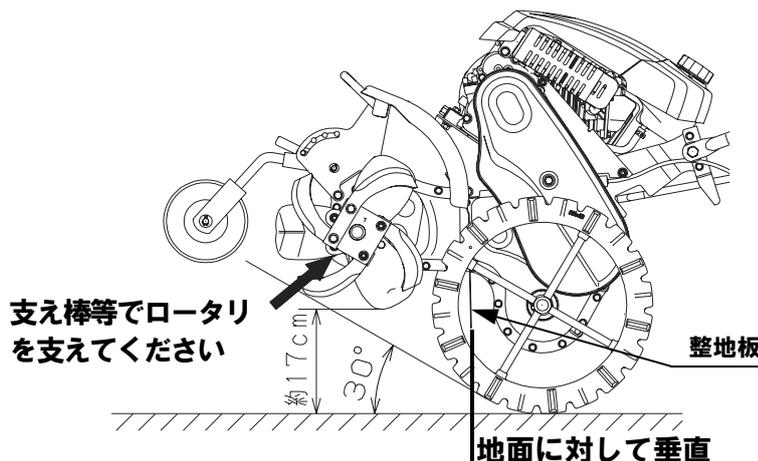
機体方向説明

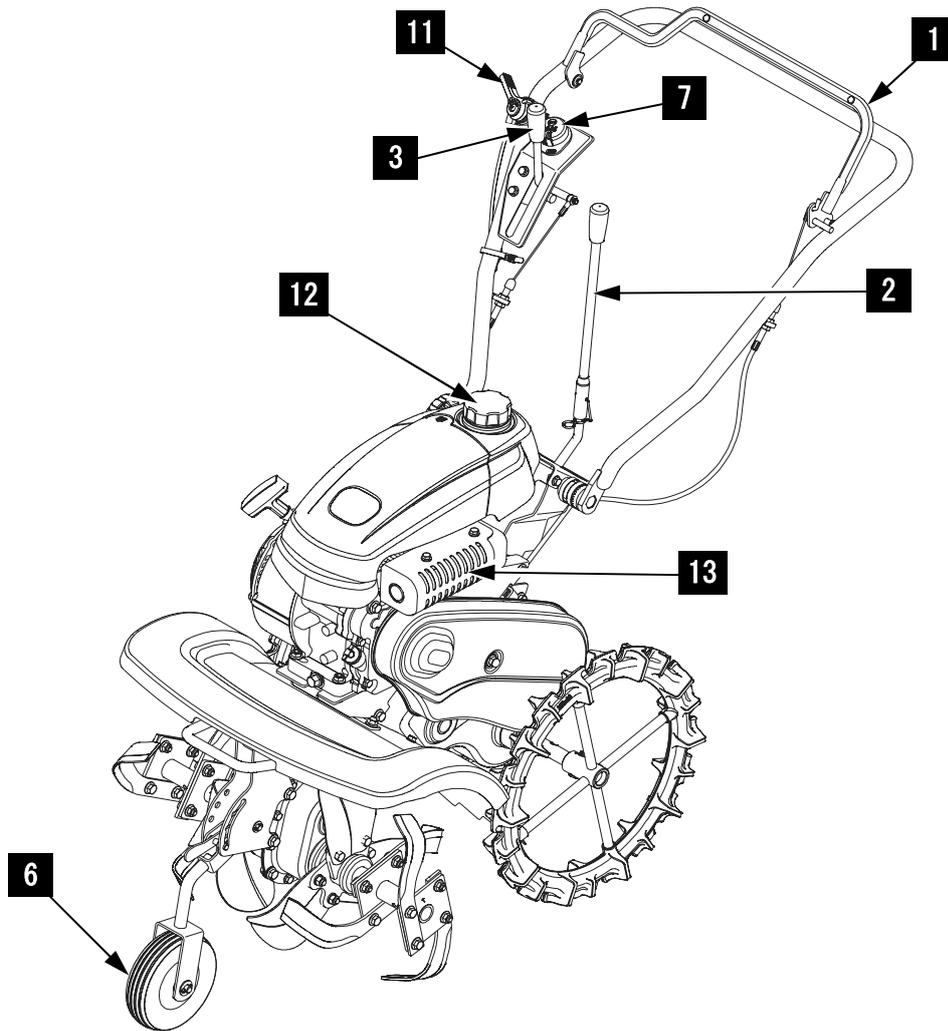
後方

右側

左側

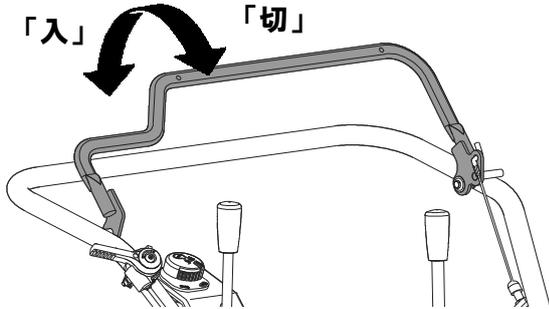
前方

⚠ 取扱い上の注意

＊ハンドルを地面に接地させた姿勢にすると、燃料漏れの発生、または、エンジン始動不良のおそれがありますので、本機をハンドル側に３０度（※）以上(耕うん爪下高さ１７cm以上)傾けないでください。
ロータリ部の点検・清掃・爪の交換などでやむを得ず機体をハンドル側に倒して行う場合はエンジンを停止して燃料タンク内の燃料を空にし燃料コックレバーを〔停止〕位置にし、ロータリの下に支え棒等をつかってロータリが落下しないように行ってください。

※３０度の目安：整地板が地面に対し、垂直になるところ。

装置の名称

1 主クラッチレバー
2 変速レバー
3 デフロックレバー KHR350M
4 正逆切替えレバー KHR350M
5 ハンドル固定握り
6 前輪
7 エンジンスイッチ
8 リコイルスターター
9 チョークレバー
10 燃料コックレバー
11 スロットルレバー
12 燃料キャップ
13 マフラ(消音器)

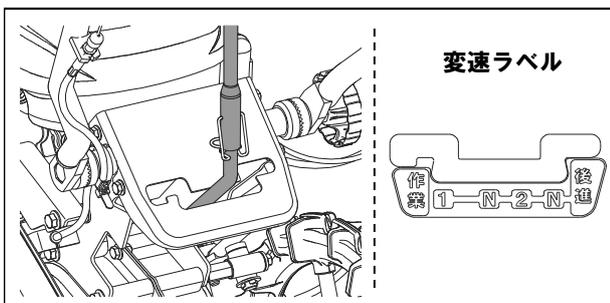
各部の名称とはたらき

1　主クラッチレバー

エンジンからの動力を断続します。
1．レバーを握るとクラッチが〔**入**〕ります。
2．レバーを放すとクラッチが〔**切**〕れます。

警告

＊傾斜地や後進するときなどは、ハンドルが持上がり危険な場合がありますので、主クラッチレバーをゆっくり操作してください。
＊狭い場所や後進の運転についてはエンジンの回転を低速にし後方や上方など周りの安全を確かめゆっくりと主クラッチレバーを操作してください。
＊危険を感じたら、早めに手を離してください。

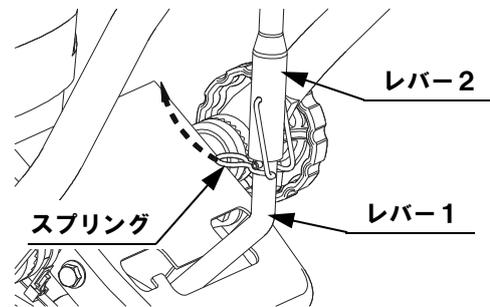
2　変速レバー

変速操作は主クラッチレバーを〔**切**〕で行います。
1．走行変速は前進２段、後進１段です。
2．ロータリ変速は前進１段です。

警告

＊エンジンを始動する前に、必ず変速レバーを〔Ｎ〕にしてください。

変速ラベル	走行方向/耕うん爪の回転
1	低速で前進します。耕うん爪は回りません。
2	高速で前進します。耕うん爪は回りません。
N	タイヤも耕うん爪も回りません。
作業	低速で前進し、耕うん爪が回ります。
後進	後進します。耕うん爪は回りません。

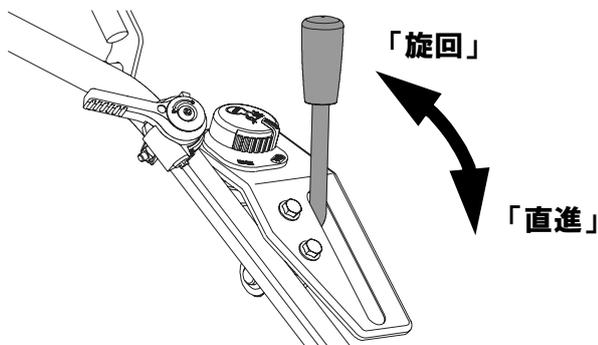
■着脱方法、収納方法

ハンドルを折り畳むとき等、変速レバーを取外すことができます。
1．スプリングをレバー１から抜き、レバー２を上方に引抜きます。
　※取付けは、上記と逆の手順で行ないます。

2．スプリングを１８０度回転させ、レバー２に嵌め込みます。
3．スプリングの差込み部をレバー１に差込み、収納状態になります。

3　デフロックレバー　KHR350M

左右の車輪の回転を〔**同回転**〕・〔**差動回転**〕させるレバーです。

1．〔**直進**〕は、左右の車輪が同回転します。

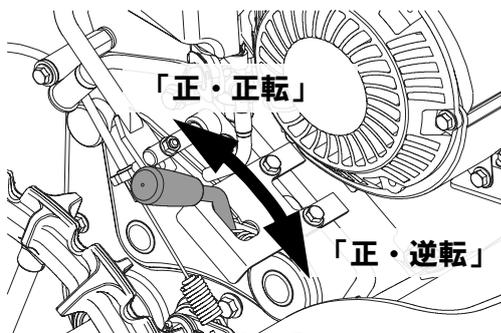
2．〔**旋回**〕は、左右の車輪が差動回転します。

警告

＊〔旋回〕の位置でトラックへの積降ろしや坂道移動をすると、思わぬ方向にハンドルを取られる場合があり危険です。発進する前に必ずレバーを〔直進〕の位置にしてください。

4　正逆切替えレバー　KHR350M

爪軸回転を切り替えるときに使うレバーです。

1．〔**正・逆転**〕は、硬い圃場を耕起するときに使います。

2．〔**正・正転**〕は、作業の仕上げやうね立作業に使います。

警告

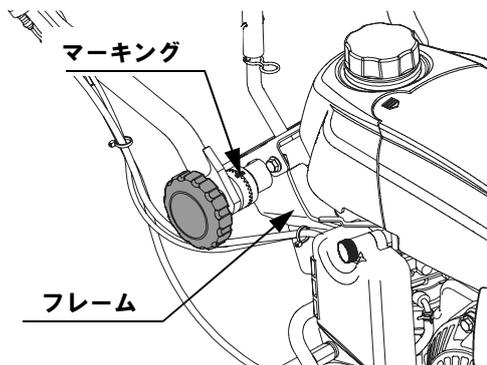
＊切り替え操作を行う場合は、必ず主クラッチを〔切〕にしてください。

5　ハンドル固定握り

ハンドル高さを調節するとき、またはハンドルを折り畳むときに使用します。

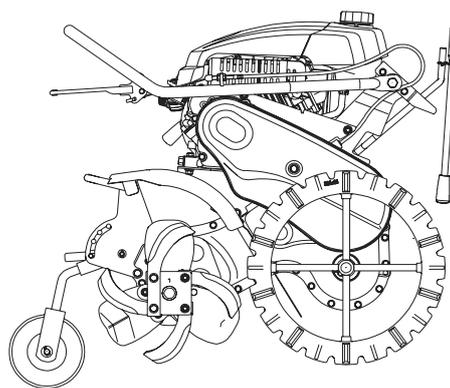
1．握り側のハンドルとフレームにある黒色のマーキングを合わせた位置がハンドルの標準高さになります。

2．ハンドルの高さを調節するときは握りを緩めます。

3．調節後はハンドルがガタつかないよう、握りを確実に締付けます。

■ハンドルの折り畳み方

運搬時、格納時にハンドルを折り畳むことができます。

1．握りを緩めて折り畳みます。

2．折り畳んだ後は握りを確実に締付けます。

警告

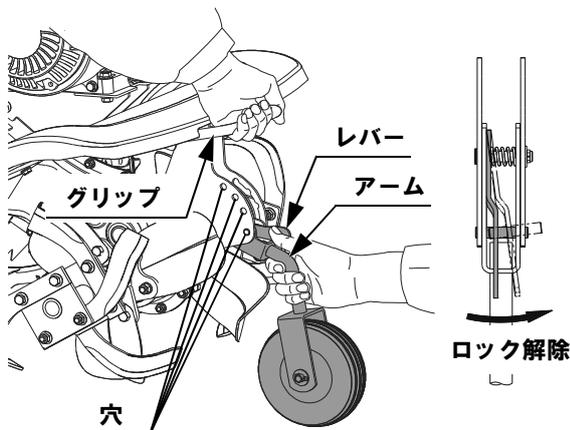
＊機体を持上げる際は、グリップ及びハンドルの根元付近を持ってください。その他の場所を持っての持上げは機体の損傷の原因となります。

＊機体を持上げる際は、２人以上で行なってください。１人で行なうと腰を痛めるなどの傷害のおそれがあります。

6　前輪

耕うん作業中の耕深調節と移動時の移動輪として使用します。

1．グリップを握り、ロータリ部を浮かせます。
2．上記の状態でアームを握りながらレバーを図示方向にずらし、ロックを解除します。
3．前輪を任意の穴位置までスライドし、レバーを離すと再びロックされます。
　このとき、前輪が確実にロックされていることを確認してください。

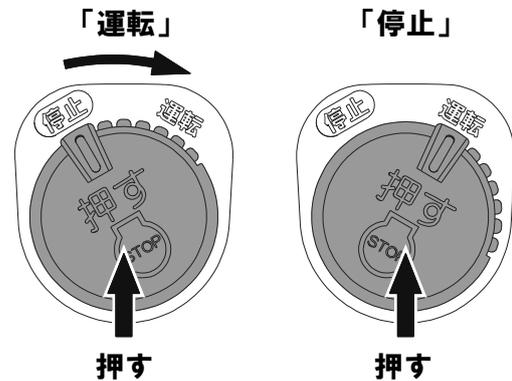
⚠ 警告

＊調節時は必ずエンジンを停止してください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

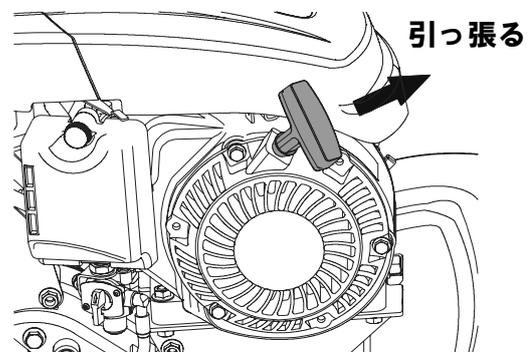
＊前輪の調節時はグリップを握り、ロータリ部を浮かせてから行なってください。ロックが解除されるとロータリ部が急に地面に落ち、傷害事故のおそれがあります。
＊移動時、段差がある場合や旋回する際はハンドルを下げ前輪を浮かせて走行してください。前輪が損傷する原因となります。

7　エンジンスイッチ

エンジンの運転・停止に用います。

1．スイッチを押しながら〔**運転**〕位置に回すと始動が可能です。
2．スイッチを押すと左に回って〔**停止**〕位置に戻り、エンジンが停止します。

8　リコイルスターター

エンジンの始動をします。

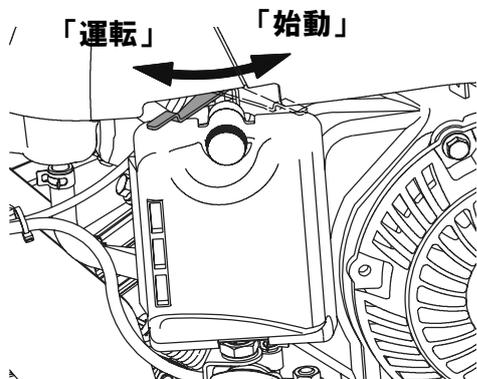
1．リコイルスターターの握りを引っ張ると始動します。

⚠ 注意

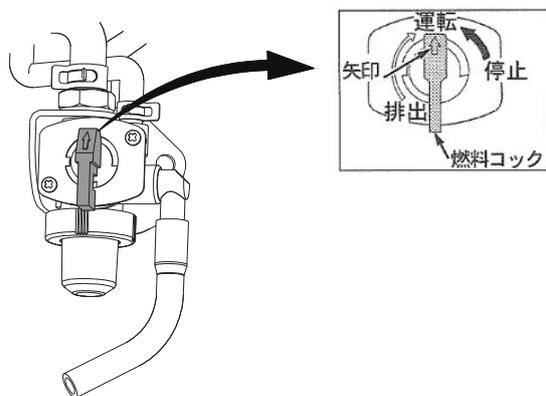
＊リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか、突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。

補 足

＊主クラッチレバーは必ず〔切〕の状態で、変速レバーを〔中立〕にして始動してください。

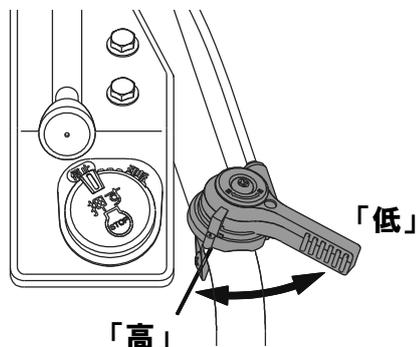
9 チョークレバー

寒冷時にエンジンが掛かりにくい時使用します。
1．始動前…レバーを〔**始動**〕側にスライドする。
2．始動後…レバーを〔**運転**〕側にスライドする。

10 燃料コックレバー

燃料タンクからエンジンへ燃料の〔**供給**〕・〔**停止**〕・気化器内の燃料を〔**排出**〕します。
1．〔**停止**〕　…燃料供給停止。
2．〔**運転**〕　…燃料供給。
3．〔**排出**〕　…燃料排出。

重　要

＊ロータリ部の点検や掃除などで機体をハンドル側に倒す際は燃料コックレバーを〔停止〕位置にしてください。

11 スロットルレバー

エンジン回転の調節をします。
1．〔**高**〕の方向に回すと回転が上がります。
2．〔**低**〕の方向に回すと回転が下がります。

12 燃料キャップ

燃料の種類	規定容量
自動車用無鉛ガソリン	０．８Ｌ

危 険

＊燃料の給油時はエンジンを停止し、エンジンやマフラが冷えてから行なってください。
＊火気厳禁。くわえ煙草での給油はしないでください。
＊燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。
＊燃料は規定量以上入れないで下さい。
＊燃料補給後、給油キャップはもれないようにしっかり締めてください。

重　要

＊燃料タンク内にゴミや水及びその他異物が混入しないように、注意してください。

13 マフラ

警 告

＊マフラに手を触れないで下さい。ヤケドをするおそれがあります。

警告

＊ 平坦な場所に機械を安定させて点検してください。
＊ 点検中はエンジンを停止してください。

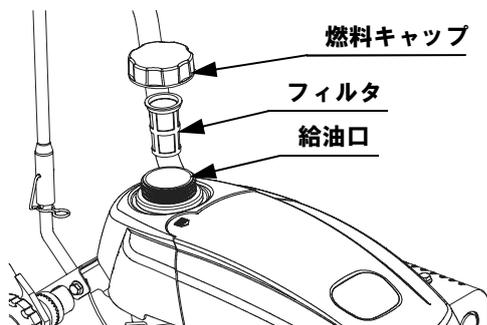
危険

＊ 燃料の給油時はエンジンを停止し、エンジンやマフラが冷えてから行なってください。
＊ 火気厳禁。くわえ煙草での給油はしないでください。
＊ 燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。
＊ 燃料は規定量以上入れないで下さい。
＊ 燃料補給後、給油キャップはもれないようにしっかり締めてください。

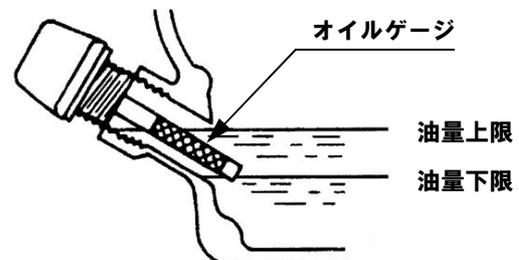
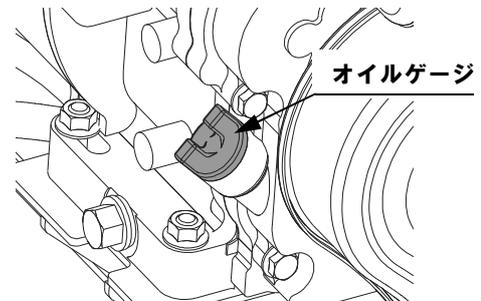
調子よく安全に作業するために　（詳細は【簡単な手入れと処置】の章参照）

1．燃料

燃料の種類	規定容量
自動車用無鉛ガソリン	０．８Ｌ

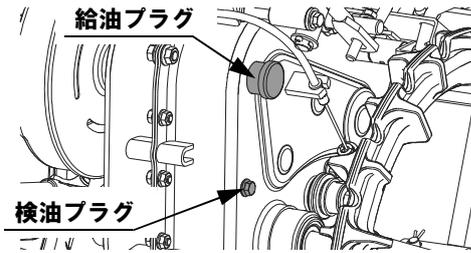
●給油後は燃料キャップを確実に締めます。

2．エンジンオイル

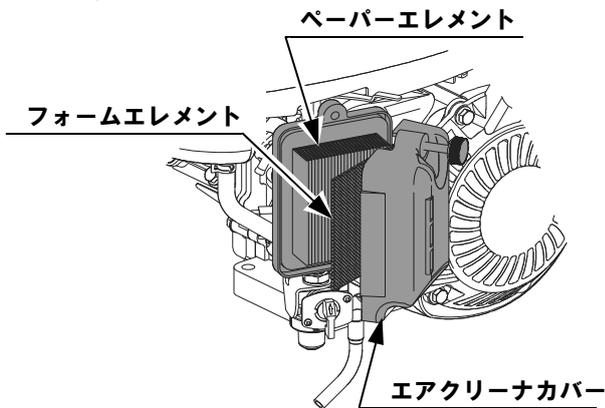
●耕うん爪が接地した状態でエンジンが水平になる場所に停車し、オイルゲージを抜いてオイルをきれいに拭取り、ねじ込まないで給油口に差込みます。
(エンジンが水平になる位置については、２４ページの**【エンジンオイルの交換】**を参照)
●再度抜いて、オイルゲージで規定量あるか確認します。
●不足している場合は、エンジンオイルを補給します。
春→秋：３０＃又は１０Ｗ－３０
冬：２０＃又は１０Ｗ－３０

エンジンオイル容量	０．４６Ｌ

3．ミッションオイル

●給油プラグを外し、ギヤオイルを規定量給油してください。
●ロータリ爪接地状態で検油プラグを外し、オイルが流れ出れば規定量です。
●不足している場合にはオイルを補充します。

ミッションオイル容量	２．８Ｌ KHR350M
	３．１Ｌ KHR350

●給油後、給油プラグ及び検油プラグは確実に取付けて下さい。

４．エアクリーナ

●エアクリーナカバーを外し、フォームエレメント・ペーパーエレメントが汚れていないか点検してください。汚れている場合は清掃してください。

５．タイヤの点検

タイヤに亀裂等損傷がないか点検します。
損傷のひどい場合は交換してください。

６．主クラッチレバー・デフロックレバー・正逆切替えレバー

●主クラッチレバーの〔**入**〕・〔**切**〕が確実に行えるか点検します。

●デフロックレバーの〔**直進**〕・〔**旋回**〕ができるか点検します。 KHR350M

●正逆切替えレバーの〔**正・正転**〕・〔**正・逆転**〕が確実に行えるか点検します。 KHR350M

７．変速レバー

●変速が案内ラベルの表示位置で確実に行えるか点検します。

８．エンジン周辺部

●マフラの中や周りに、草や葉及び可燃物が付着していないか確認します。

●燃料タンクの周りにガソリンが付着していないか確認します。

９．電気配線

●被膜が溶けたり破れていないか、また配線がはさまれていないか点検します。

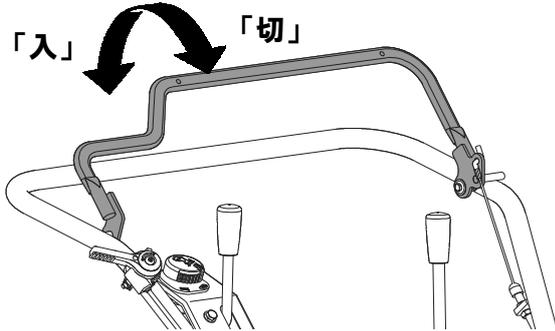
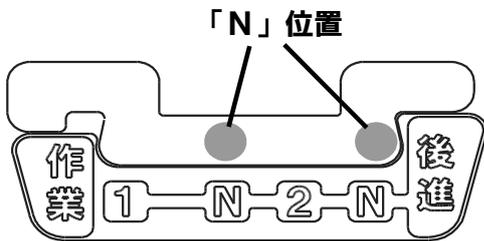
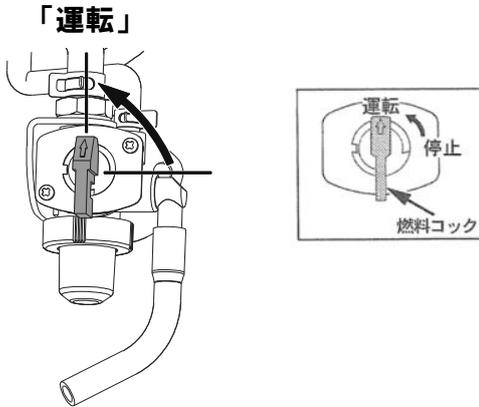
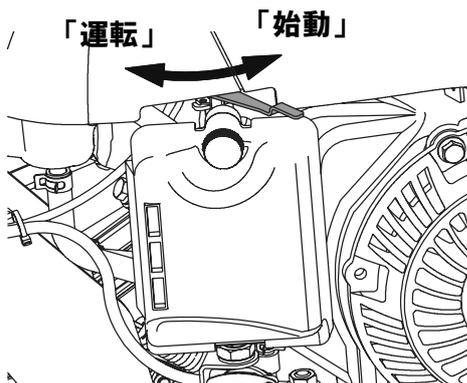
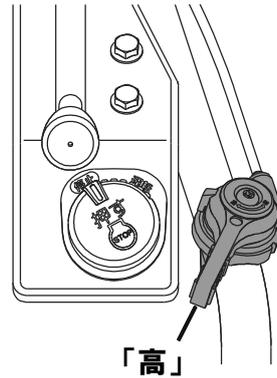
１０．その他

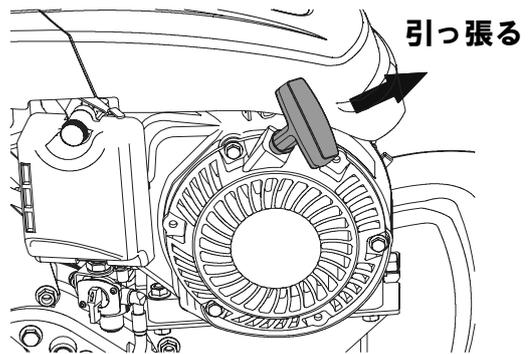
●エンジン、ミッションなどから油漏れがないか点検します。

●各摺動部へエンジンオイルを注油します。

●各部の損傷及びボルト・ナットのゆるみがないか点検します。

エンジンの始動のしかた

１．主クラッチレバーを〔**切**〕にします。

２．変速レバーを〔**N**〕にします。

３．燃料コックレバーを〔**運転**〕にします。

４．チョークレバーを〔**始動**〕にします。

５．スロットルレバーを〔**高**〕にします。

６．エンジンスイッチを〔**運転**〕にします。

７．リコイルスターターノブを握って、引っ張ります。
エンジンが始動したら、リコイルスターターノブを静かに元に戻します。

８．エンジンの運転状態を確認しながら、チョークレバーを徐々に〔**運転**〕の位置に戻します。

９．２～３分暖気運転をしてから、作業を始めてください。

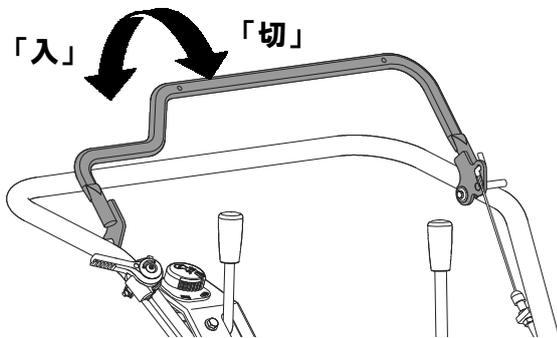
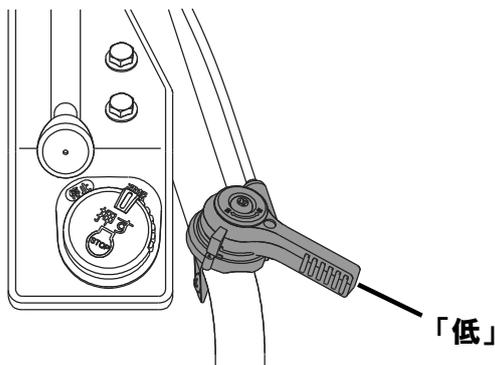
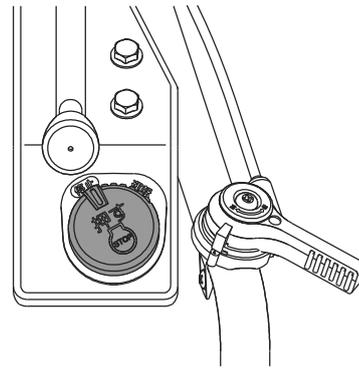
重 要

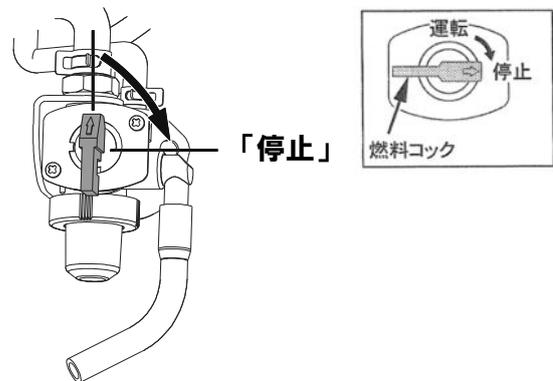
＊運転中はリコイルスターターを引かないでください。

危 険

＊マフラの排気出口方向に、燃えやすい物がないか確認してください。火災のおそれがあります。
＊リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか、突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。
＊エンジンの運転中は、危険ですからマフラやその他操作レバー以外の物には、触れないでください。ヤケドや傷害のおそれがあります。
＊夜間作業はしないでください。
＊エンジンを始動するときは、主クラッチレバーを必ず〔切〕にしてください。

エンジンの停止のしかた

1．主クラッチレバーを〔**切**〕にします。
（手を離す）

2．スロットルレバーを〔**低**〕にします。

3．エンジンスイッチを〔**停止**〕にします。

4．燃料コックレバーを〔**停止**〕にします。

重 要

＊コックを開いたままの状態で保管したり、車両で運搬したりすると、エンジン始動が困難となる場合があります。
また、クランクケース内へガソリンが流入することもあります。

警 告

＊停止直後はしばらくマフラが熱くなっています。手を触れないでください。ヤケドのおそれがあります。

発進と停止のしかた

警 告

＊運転中は周囲に人を近づけないでください。傷害事故のおそれがあります。
＊傾斜地や後進するときなどは、ハンドルが持ち上がり体や首をはさまれるなどのおそれがありますので、主クラッチをゆっくり操作してください。
＊狭い場所や後進の運転についてはエンジンの回転を低速にし後方や上方など周りの安全を確かめゆっくりと主クラッチを操作してください。
＊危険を感じたら、早めに手を離してください。

1．主クラッチレバーが〔**切**〕の位置にある（手を離した状態）こと確認した後、変速レバーを必要な変速位置にします。
2．主クラッチレバーを〔**入**〕（握った状態）にすると発進します。
3．スロットルレバーを操作して速度を調節します。

●主クラッチレバーから手を離すと、動力の伝達が停止します。

新車時の扱いかた

■ならし運転（最初の１０時間まで）
この期間中は各部になじみをつけるため、エンジンを高速回転させたり、過酷な使用は避け、無理をさせないようにしてください。

４．このように作業します

上手な作業のしかた

警 告

＊硬いほ場での耕うんは、一度に耕うんしないで２～３回に分けてください。無理にハンドルを押上げると機体が急に前に飛び出したり、運転者側に跳ね戻るなど傷害事故のおそれがあります。

＊作業前にほ場の状態をよく確認して、異物等を取除いてください。回転している爪に異物が当たると強い力で異物が飛び散り、傷害事故を引き起こすことがあります。

＊ハウスや小屋の中など障害物がある場所では、周囲をよく確認してから作業してください。特に後進・旋回するときは、エンジン回転を下げハンドルをしっかり押さえて行ってください。

■作業前の準備

各部の調節要領および作業時の設定要領を参照して、作業目的に合わせた設定をしてください。

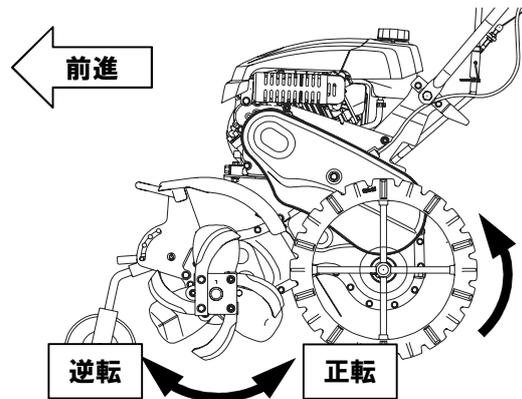
■耕うん作業手順

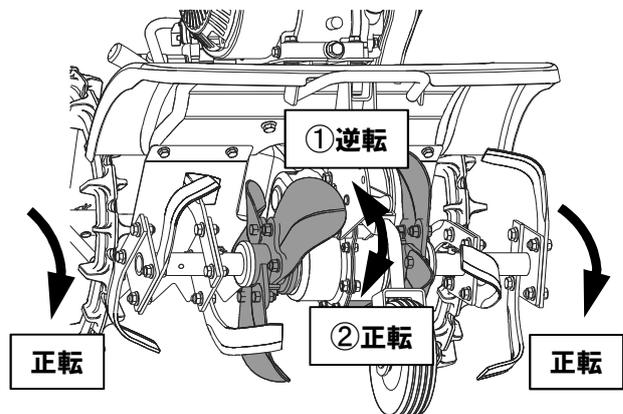
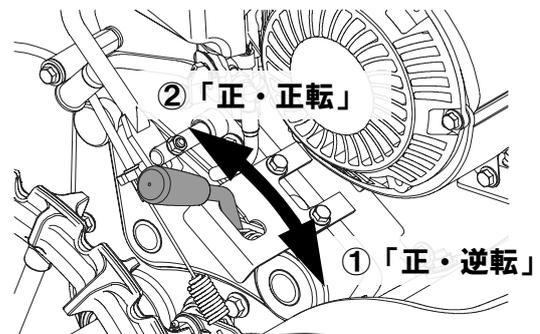
1．主クラッチレバーを〔**切**〕にします。
（手を離した状態）
2．変速レバーを〔**作業**〕に入れます。
3．デフロックレバーを〔**直進**〕にします。KHR350M
4．主クラッチレバーをゆっくり握り発進します。
5．スロットルレバーを操作し、速度やロータリ回転を調節します。

■旋回手順

1．主クラッチレバーを〔**切**〕にします。
（手を離した状態）
2．変速レバーを〔**１**〕に入れます。
3．デフロックレバーを〔**旋回**〕にします。KHR350M
4．スロットルレバーを〔**低**〕にします。
5．ハンドルを下げてロータリ部を浮かせます。
6．主クラッチレバーをゆっくり握り旋回します。
7．旋回後【**耕うん作業手順**】の手順で作業を行います。

補 足

＊ロータリ回転方向は下図に示すように前進時のタイヤ回転方向と同じ回転を〔正転〕、逆の回転を〔逆転〕と表記します。

KHR350M

＊本機は一軸正転・正逆転ロータリです。下図に示すように内爪軸が正転の時は〔正・正転〕（図中②）、逆転の時は〔正逆転〕（図中①）と表記します。
なお、外爪軸は常に正転回転します。

4．このように作業します

KHR350

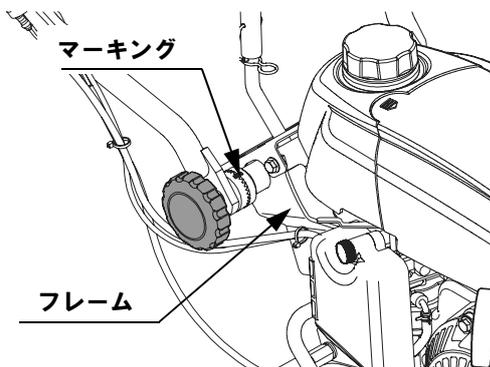
＊本機は一軸正逆転ロータリです。内爪軸は逆転回転、外爪軸は正転回転します。切り替えはありません。

各部の調節

■ハンドル高さの調節

警 告

＊平坦な場所に安定させて、必ずエンジンを停止して行ってください。傷害事故のおそれがあります。

ハンドルは使用する人の体格や作業の種類に合わせて使いやすい高さに調節します。
（１３ページの【**5 ハンドル固定握り**】を参照）

■前輪の調節（耕深調節）

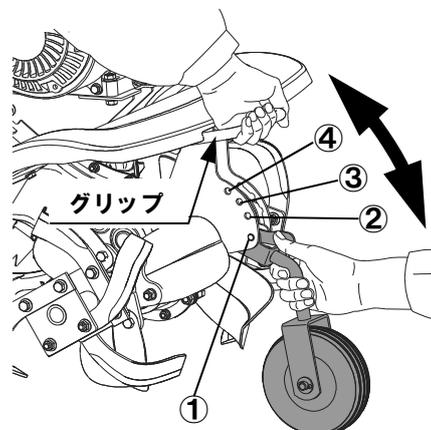
注 意

＊前輪の調節時はグリップを握り、ロータリ部を浮かせてから行なってください。ロックが解除されるとロータリ部が急に地面に落ち、傷害事故のおそれがあります。

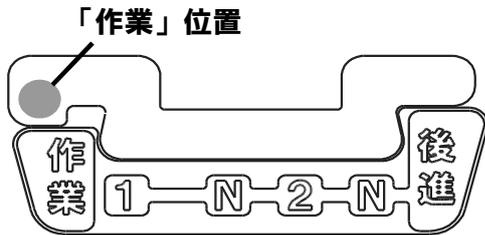
警 告

＊調節時は必ずエンジンを停止してください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。
＊耕深を深くしすぎると、思わぬ方向に機体が飛び出し、傷害事故につながるおそれがあります。浅めの耕深から徐々に調節してください。

前輪を調節して耕うん深さを設定します。
（１４ページの【**6 前輪**】を参照）

①　移動するとき
②　浅く耕したいとき・ほ場が硬いとき
③　標準です
④　深く耕したいとき
※アタッチメント（作業機）を取付けて作業する時は②または③の位置にしてください。

4. このように作業します

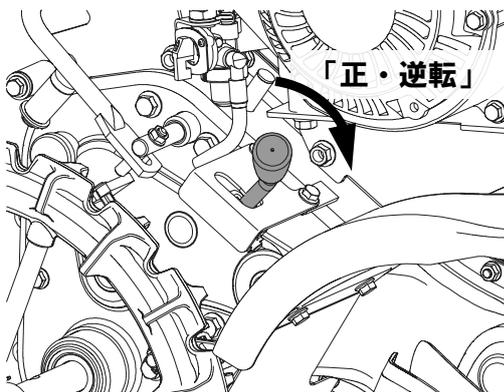
作業時の設定要領

〔**作業**〕の位置でのみ作業ができます。

> ⚠ **警 告**
>
> **＊耕深調節、爪の取付け・取外しをするときは、必ずエンジンを停止してください。傷害事故のおそれがあります。**
>
> **＊硬いほ場での耕うんは、一度に耕うんしないで２～３回に分けてください。無理にハンドルを押付けると機体が急に前に飛び出し、傷害事故のおそれがあります。**

■ほ場が硬いときの作業

ほ場が硬いときの作業は〔**正・逆転**〕で行うことを推奨しています。

◆作業回転 KHR350M

土がある程度柔らかくなるまで、正逆切替えレバーを〔**正・逆転**〕にして作業してください。

◆耕深調節

前輪は②～④の位置で固定します。

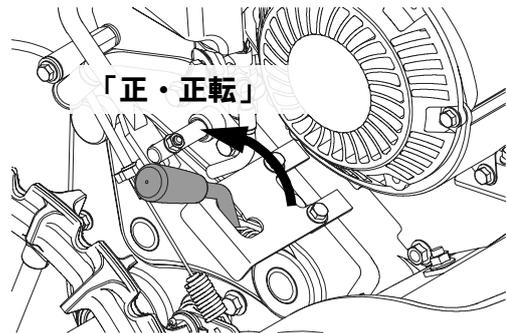
機体が飛出し、作業が困難なときは、②の位置で固定してください。

（２２ページの【**前輪の調節（耕深調節）**】を参照）

■仕上げ作業・耕深を深くしたいとき

仕上げ作業及びアタッチメント(作業機)を取付けて作業する時は〔**正・正転**〕で行うことを推奨しています。機体の推進力を損なうことなく、仕上がりのきれいな作業ができます。 KHR350M

◆作業回転 KHR350M

正逆切替えレバーを〔**正・正転**〕にして作業してください。

◆耕深調節

前輪は③～④の位置で固定します。

機体が飛出し、作業が困難なときは、③の位置で固定してください。また機体がもぐるときは②の位置で固定してください。

（２２ページの【**前輪の調節（耕深調節）**】を参照）

廃棄物の処理について

警 告

＊廃棄物をみだりに捨てたり、焼却しないでください。環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
＊機械から廃液を除く場合は容器に受けてください。地面へのたれ流しや河川・湖沼・海洋への投棄はしないでください。
＊廃油・ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者に相談して、所定の規則に従って処理してください。

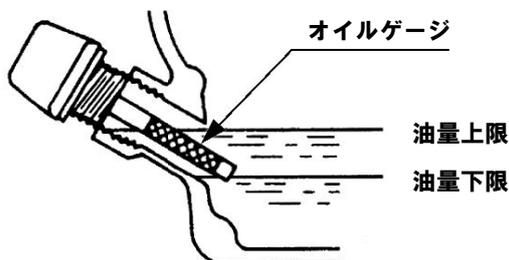
日常の手入れ

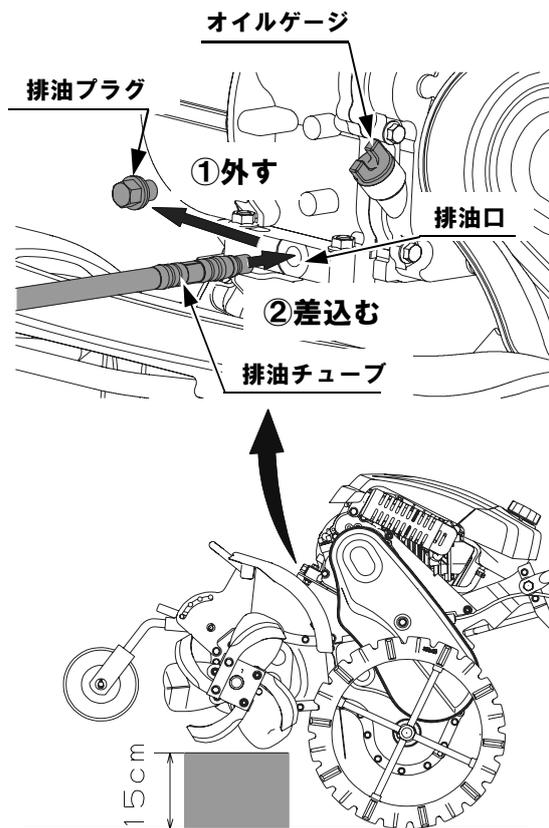
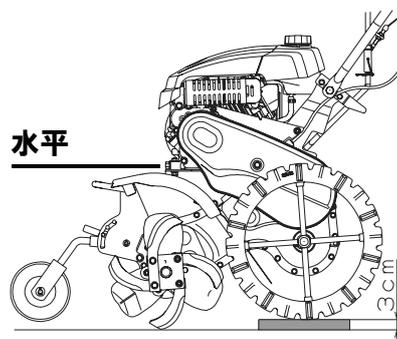
警 告

＊給排油・点検・調節・清掃は、エンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行ってください。
＊平坦な場所に機械を安定させて行ってください。

■エンジンオイルの交換

◆給油

耕うん爪が接地した状態でエンジンが水平になる場所に停車し、オイルゲージを用いて規定量まで入れます。

◆排油

1．耕うん爪が接地した状態で平坦な場所に停車し、耕うん爪下に１５ｃｍ程度の台を置くなどしてロータリを浮かせます。
（参考：地面から約２５度傾斜）
2．排油プラグを外し、付属の排油チューブを排油口に差込みます。

3．エンジン座面が水平になるように機体を下ろすと（耕うん爪が接地した状態でタイヤを３ｃｍ浮かせた状態）、排油チューブから排油されます。
必ずオイルパン等で受けてください。

重 要

＊粗悪なオイルを使用しますと、エンジンの寿命を急激に縮めますので、販売店・農協でエンジンオイル10W-30とご指定の上、お求めください。
（25ページの【オイルの点検と交換表】を参照）
＊排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。
＊ハンドルを地面に接地させた姿勢にすると、燃料漏れの発生、または、エンジン始動不良のおそれがありますので、本機をハンドル側に３０度以上傾けないでください。
（10ページの【⚠ 取扱い上の注意】を参照）

■ミッションオイルの交換

◆給油

ロータリ爪接地状態で給油プラグを取外し、ギヤーオイルを規定量給油します。このとき、必ずオイルパン等で受けてください。
検油口位置までオイルが入れば規定量となります。

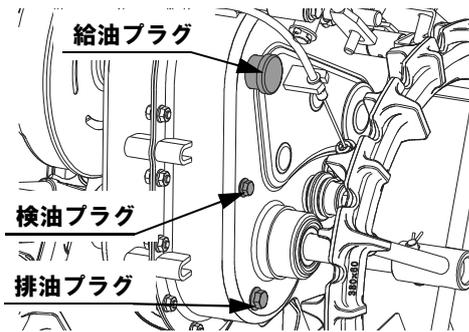
◆排油

排油プラグを外して排油します。このとき、必ずオイルパン等で受けてください。

補 足

＊給油プラグを外すとオイルの出がスムーズになります。

重 要

＊粗悪なオイルを使用しますと、機械本体の寿命を急激に縮めますので、販売店・農協でSAE80#または90# とご指定の上、お求めください。
(25ページの【オイルの点検と交換表】を参照)
＊排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。
＊オイルを交換する場合は、まず旧油を排出しますが、ケース内のゴミも同時に排出させるために、できるだけ運転使用後、オイルが暖まっている状態のとき排出してください。

オイルの点検と交換表

項目 (オイル量)	点検方法	交換		オイルの種類
		第一回目	以後	
エンジンオイル（0.46Ｌ）	エンジン水平	8時間使用後	50時間使用ごと	10W-30
KHR350M ミッションオイル（2.8Ｌ） KHR350 ミッションオイル（3.1Ｌ）	機体水平	20時間使用後	年一回	SAE80#または90#

■エアクリーナエレメントの清掃

1．ノブを緩めて、エアクリーナカバーを外したあと、エアクリーナエレメントを取外します。
2．フォームエレメントは、石鹸水を入れた槽の中で洗浄し、圧搾空気を当てる等して完全に空気乾燥させてください。清掃後、きれいなエンジンオイルを染込ませて絞ってから乾かしてください。
3．ペーパーエレメントは、平面上に置いて軽く叩き、ほこりを落としてください。（圧搾空気は使わないこと。オイルに浸さないこと。）

重 要

＊エアクリーナを取外したままエンジンを始動しないでください。ゴミやホコリを吸込み、エンジン不調やエンジン異常摩耗の原因となります。
＊汚れたまま使用しますと、エンジンの出力低下や故障の原因になります。

25時間使用ごと	フォームエレメントの清掃
100時間使用ごと	ペーパーエレメントの清掃
300時間使用ごと	ペーパーエレメントの交換

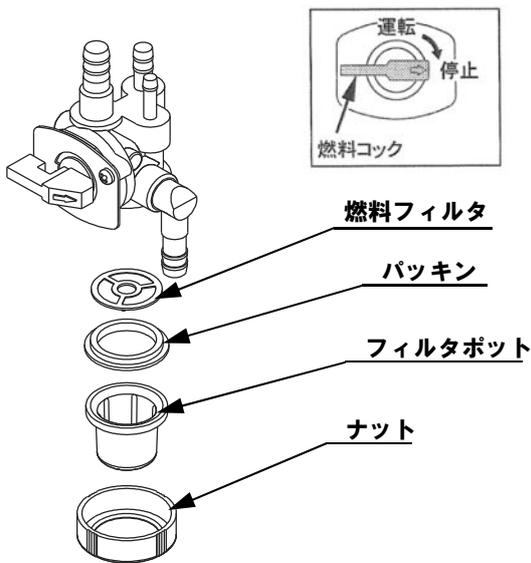
■燃料フィルタの清掃

燃料フィルタは、燃料のゴミを取除きます。除かれたゴミは、フィルタポットの底にたまります。

注 意

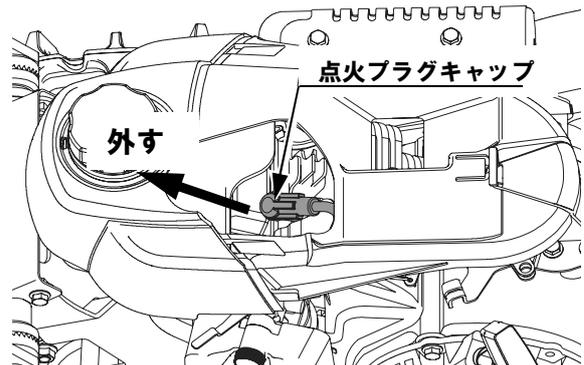
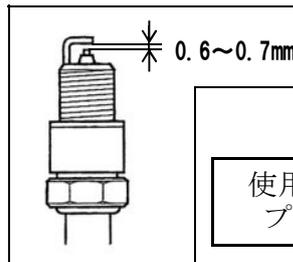
＊取付け後、ガソリン漏れがないか確認してください。
＊パッキンは確実に取付けてください。ガソリン漏れの原因となります。

1. 燃料コックレバーを〔**停止**〕にします。
2. 燃料コックの下に燃料受け容器を置き、ナットを緩め、フィルタポットを取外します。
3. フィルタポットと燃料フィルタを洗浄します。

50時間使用ごと	燃料フィルタの清掃

■点火プラグの調節・清掃・交換

警 告

＊高温部が冷えてから行ってください。

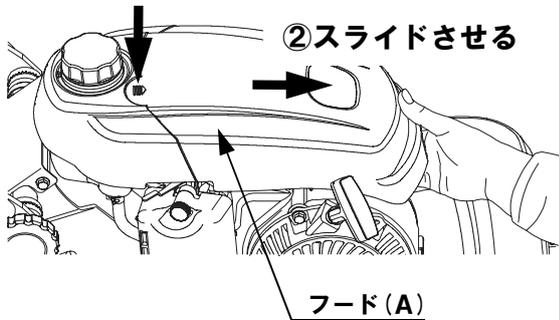
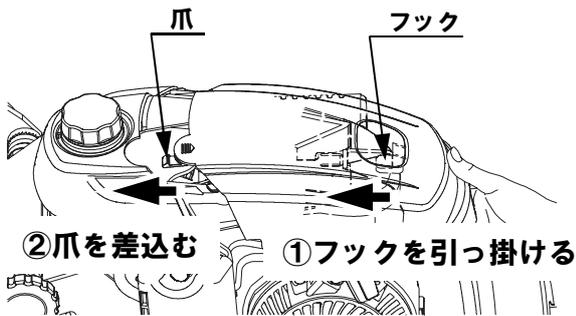
1. フードを開けてください。（２７ページ参照）
2. 点火プラグキャップを外し点火プラグを露出させます。

3. 付属のプラグレンチでプラグを外し、電極に付着したカーボンを取除き、紙ヤスリで磨きます。
4. 電極の隙間が０．６～０．７ｍｍになるように調節してください。
5. 点検調整は、１００時間ごとに行ってください。

使用点火プラグ	B6HS(NGK)

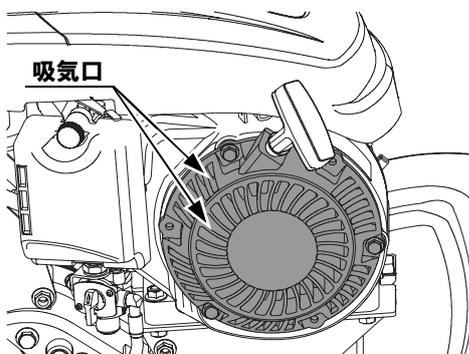
6. 作業が終わったら、点火プラグキャップを元に戻してください。
7. フードを閉じてください。（２７ページ参照）

重 要

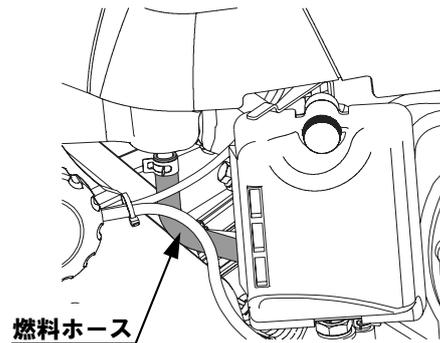
＊プラグ締付け時は、ネジ山を潰さないように、はじめは手で締込んでから、プラグボックスで締付けてください。
＊調節・清掃してもエンジンが不調なときは、新しいプラグと交換してください。
＊プラグを外したまま始動作業をしないでください。

◆フードの開閉

1．フード(A)の先端に手を添え、境目にある図のマーク部分を押します。
2．前方にスライドさせると、フードが開きます。

3．フード(A)のフックを引っ掛けながらスライドさせ、爪を差込むとフードが閉まります。

■リコイルスターター部の清掃

リコイルスターター部の吸気口はきれいに清掃しておきます。ワラクズ、ゴミ等の付着があるとエンジンの過熱や出力低下の原因になります。(ここからエンジンの冷却風が吸込まれます)

■燃料ホースの点検

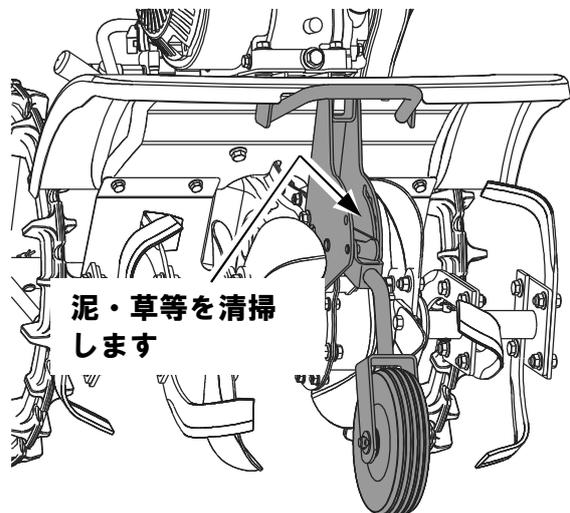
 警告

＊燃料ホースは自然劣化したり傷があるとガソリン漏れで火災の原因となります。作業前に毎回点検し、ヒビや割れが発生したものは新しい燃料ホースと交換してください。

■タイヤの点検

タイヤに亀裂等損傷がないか点検します。
損傷のひどい場合は交換してください。

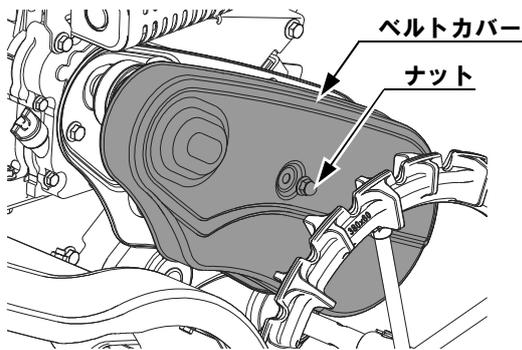
■前輪の清掃

作業終了後、または前輪調節の操作が重くなったときは清掃してください。

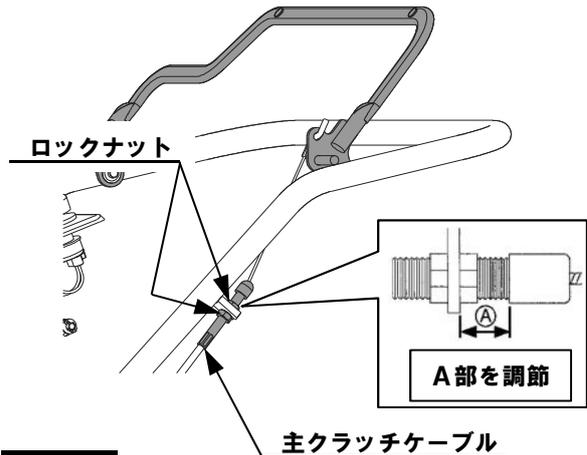
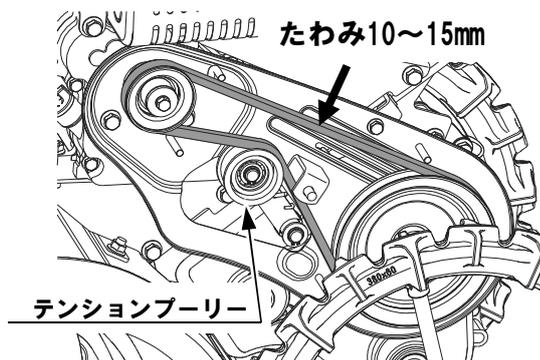
1．エンジンを停止します。
2．前輪作動範囲の泥・草等をを取除きます。泥・草等が詰まったまま放置すると泥・草等が固まり、前輪調節ができなくなりますので作業後毎回清掃してください。

■主クラッチケーブルの調節

警 告

＊ベルト調節を行う場合は、必ずエンジンを停止して行ってください。
＊調節が終わったら必ずベルトカバーを取付けてください。巻込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。
＊エンジンを始動する前に、変速レバーを〔Ｎ〕にしてください。
＊調節・確認時は周囲に人や動物を近づけないでください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。

１．ナットを外し、ベルトカバーを取外します。

２．主クラッチレバーを入れた状態で、ベルトの上側中央部を指で押さえ１０～１５ｍｍたわむ程度に調節金具でテンションプーリーを調節します。
なお、使用初期はベルトが伸びやすいため、１０時間使用後ケーブルを再調節してください。

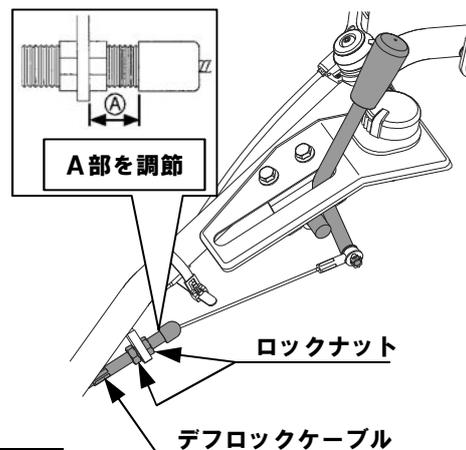
ベルトがスリップする場合	調節金具のＡ部を短くする
主クラッチレバーが重すぎる場合	調節金具のＡ部を長くする

重 要

＊調節後は、調節金具のロックナットを確実に締付けてください。
＊主クラッチケーブルを調節した場合、エンジンを始動して主クラッチの〔入〕・〔切〕が確実に作動するか確認してください。

■デフロックケーブルの調節 KHR350M

デフロックレバーを**〔直進〕**にしてもロックされにくい場合、また**〔旋回〕**にしてもロックが解除されにくい場合は、調節金具のロックナットを緩めてレバーを調節してください。

ロックされにくい	調節金具のＡ部を短くする
ロック解除されにくい	調節金具のＡ部を長くする

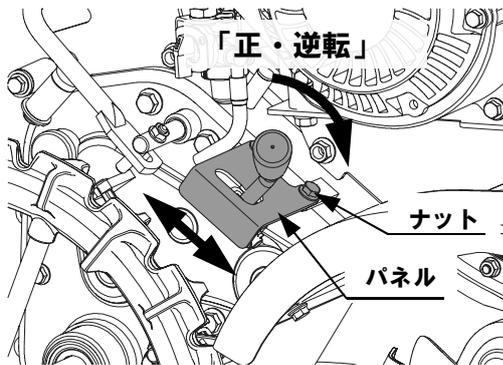
重 要

＊調節後は、調節金具のロックナットを確実に締付けてください。

■正逆切替えレバーの調節 KHR350M

警 告

＊調節を行う場合は、必ずエンジンを停止して行ってください。

正逆切替えレバーを操作しても爪軸の回転が正しく切替らない場合は、以下の手順で調節してください。

１．パネルのナット(２個)を緩めてレバーを〔**正・逆転**〕にし、レバーがいっぱいに下がるところでパネルをずらします。調節後は、ナットを締付けてください。

２．レバーを〔**正・正転**〕にし、内爪軸を手で回したとき正転方向に回り、外爪軸も連動して回転するか点検します。
内爪軸のみが回転する場合や、正転方向に回らないときは再調節してください。

３．レバーを〔**正・逆転**〕にし、内爪軸を手で回したとき逆転方向に回り、外爪軸も連動して回転するか点検します。
内爪軸のみが回転する場合や、逆転方向に回らないときは再調節してください。

(爪軸の回転方向については、２１ページの【**上手な作業のしかた**】を参照)

■スロットルレバーの調節

スロットルレバーを最高回転にしてもエンジン回転が上がらないときは、購入先にご相談ください。

■耕うん爪軸・爪の取付けかた

警告

＊ 爪の交換時は、エンジンを停止してください。
＊ 爪の交換時は、ロータリに付いた土を落とし、前輪を〔移動〕の位置で行うかロータリの下に支え棒等をつかってロータリが落下しないように行ってください。
＊ 上記の手順をおこたると、傷害事故のおそれがあります。

◆取付けかた

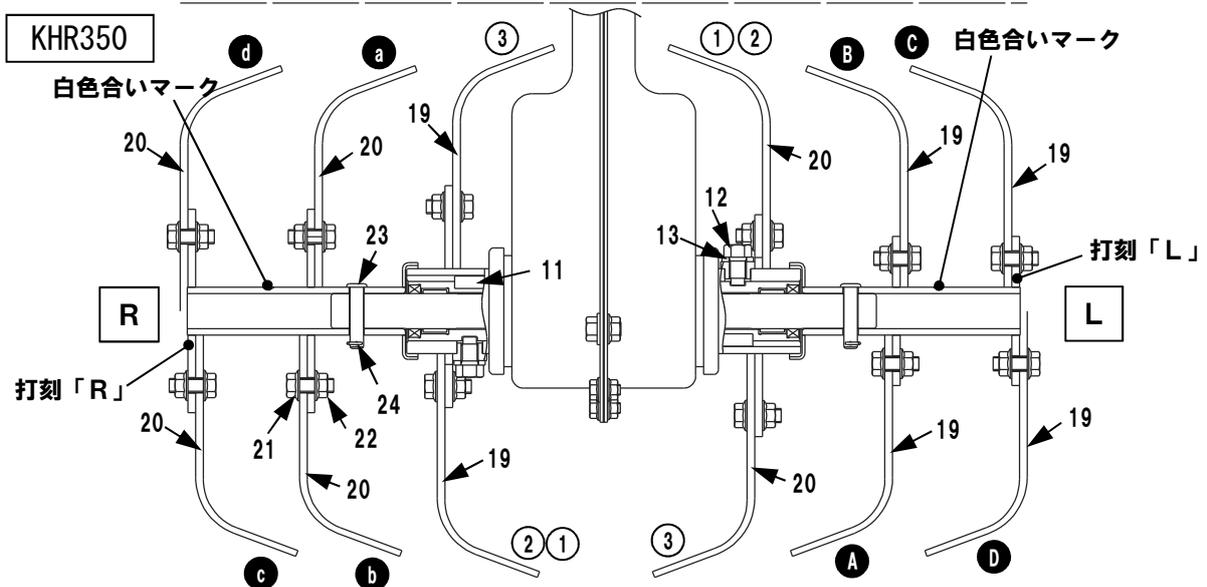
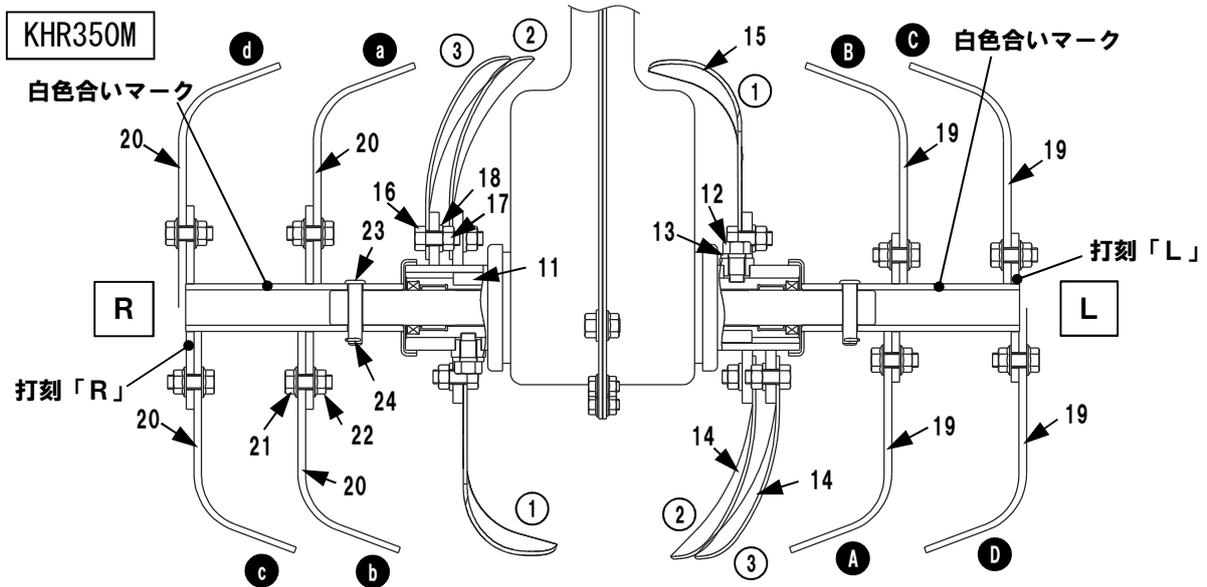
※下図の部品を指示する番号は、３７ページの**【主な消耗部品一覧】**の番号です。

●下図を参考に爪の向きを間違わないように取付けてください。

●外爪軸は左右の合いマークが一列になるように取付けてください。

●正逆爪（内爪軸）は、左右とも同じ様に爪軸に取付けてください。KHR350M

●正逆爪を取付けるときは、爪軸プレート側にバネザガネ・ナットを取付けてください。KHR350M

●ナタ爪を取付けるときは、爪軸プレート側にナットを取付けてください。

KHR350M

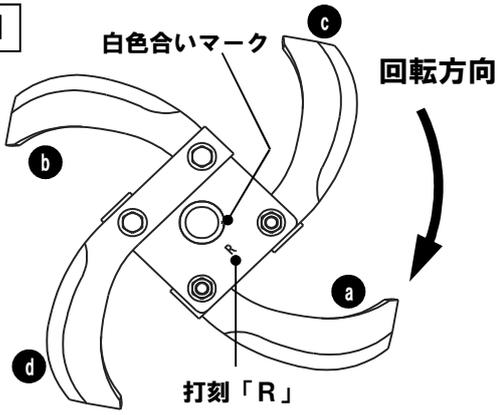
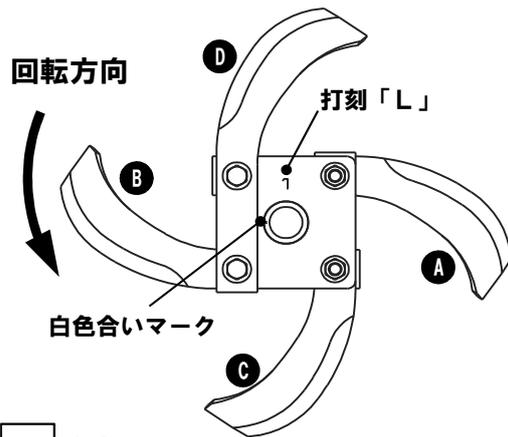
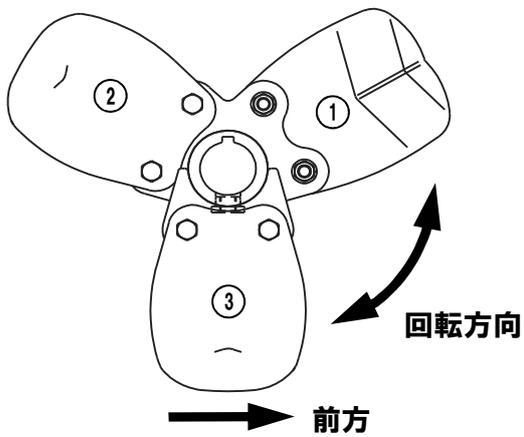
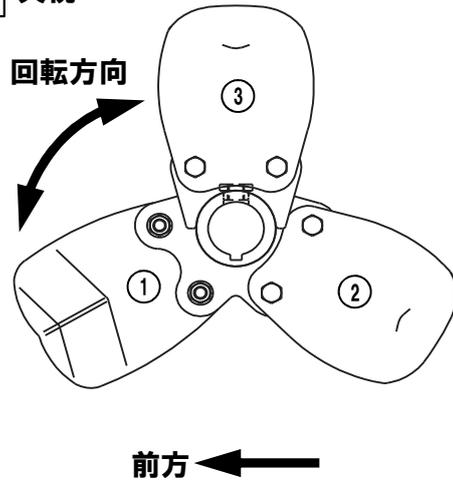
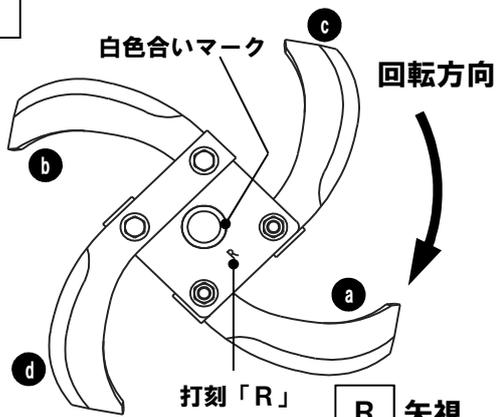
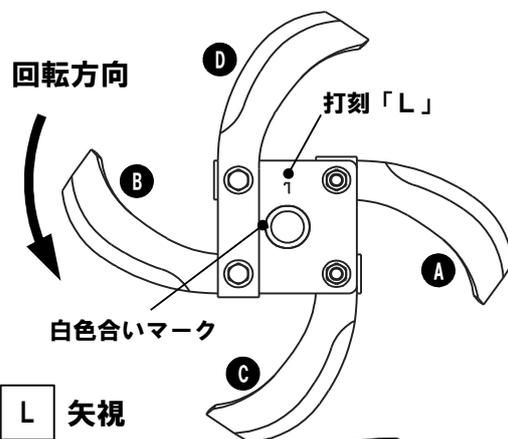
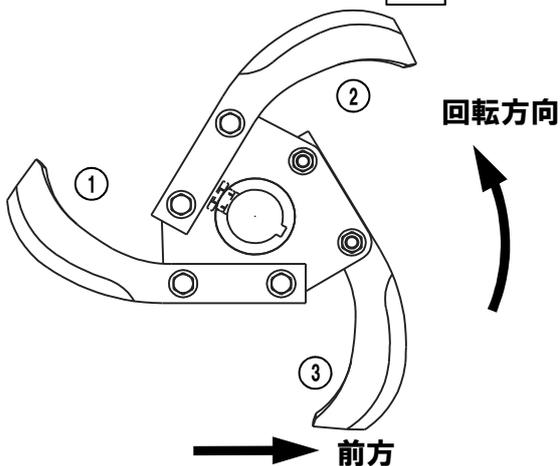
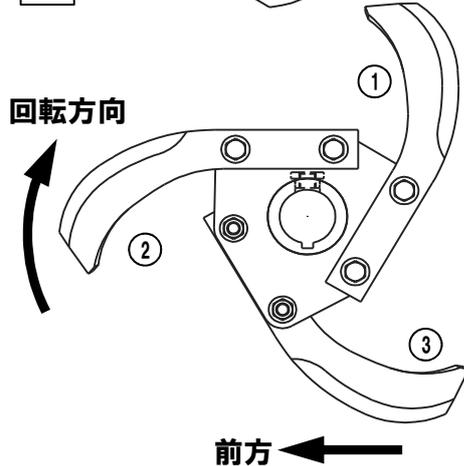
白色合いマーク
c
b
a
d
打刻「R」
回転方向

R 矢視

D
打刻「L」
B
A
白色合いマーク
C
回転方向

L 矢視

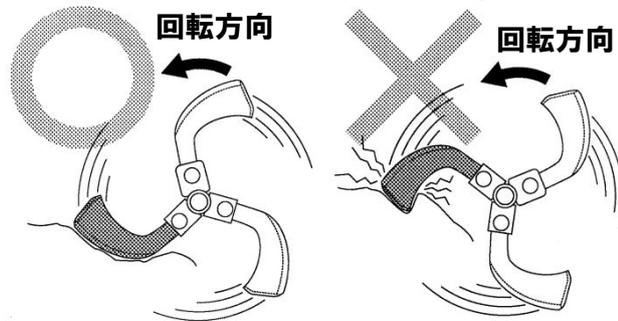
② ① ③
回転方向
前方

③ ① ②
回転方向
前方

◆取付けかた

M8ボルト・ナット （部品番号：16・17・21・22）	24～28N・m
M10ボルト・ナット（部品番号：12）	49～57N・m

重 要

＊爪の内外の向き、ならびに種類を間違わないようにしてください。
＊作業前には、爪取付けボルト・ナットに緩みがないか確認し、増締めをしてください。
＊爪を交換後は、ボルト・ナットを確実に締めてください。
＊爪軸および爪の取付方法と逆の回転方向で使用すると、故障や前方への飛出しの原因となります。
＊ハンドルを地面に接地させた姿勢にすると、燃料漏れの発生、または、エンジン始動不良のおそれがありますので、本機をハンドル側に３０度以上傾けないでください。
（１０ページの【⚠取扱い上の注意】を参照）

爪を取付ける向き

6. 作業が終わったら

使用後の手入れ

使用後は、必ずその日に掃除を行い、各部に付いている土やゴミを落とし、各摺動部はさびないように油やグリス及び防錆剤を適宜塗布してください。特にファンカバー内にゴミが詰まりますと、エンジンの焼付きなどの原因になりますので、よく点検・清掃を行ってください。

重 要

＊水洗いのとき、エアクリーナー吸込口から水が入らないように気を付けてください。

■長期格納時の手入れ

 危 険

＊カバーをかけたり、納屋に保管するときは、エンジンが冷えてからにしてください。火災のおそれがあります。
＊燃料がこぼれたときは、きれいにふき取ってください。爆発・火災のおそれがあります。

1．主クラッチレバーは〔**切**〕で保管します。
2．燃料タンク・キャブレター・フィルタポットの中のガソリンは全て抜取ります。
（1ヶ月以上使用しないとき）
3．オイルを交換し、各部をきれいに掃除します。
4．エアクリーナエレメントを掃除しておきます。
5．エンジンのシリンダ内に湿気が入って、始動が困難になるのを防止するため、リコイルスタータノブを引っ張って、圧縮位置で止めておきます。
6．カバーをかけ、湿気や草・ワラ及びホコリのない場所に置きます。

重 要

＊ほ場に保管していると、地面からの湿気が多いのでさびやすくなります。

■エンジン始動不良を防ぐために

エンジン停止後、必ず燃料コックを〔**停止**〕位置にしてください。

重 要

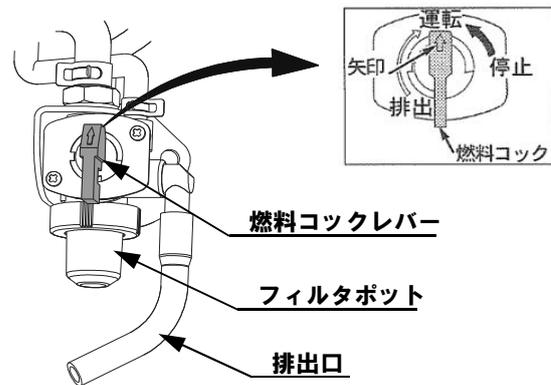
＊コックを〔運転〕位置で保管したり、ハンドル側に倒したり（本機をハンドル側に３０度以上傾けないでください）、また車両で運搬したりすると、エンジン始動が困難になる場合があります。また、クランクケース内へガソリンが流入することもあります。

■燃料の抜取り

危 険

＊燃料を抜取るときはエンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行ってください。
＊火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。
＊燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。

１ヶ月以上使用しないときは、燃料タンク・キャブレター・フィルタポットの中のガソリンは全て抜取ります。

1．燃料コックレバーを〔**停止**〕にし、フィルタポットを取外します。
（取外し方については、２６ページの【**燃料フィルタの清掃**】を参照）
2．燃料コックの下に燃料受け容器を置き、コックを〔**運転**〕にして、燃料タンク内のガソリンを抜取ります。
3．フィルタポットを燃料コックに取付けます。
4．排出口の下に燃料受け容器を置き、コックを〔**排出**〕にして、キャブレター内のガソリンを完全に抜取ります。

重 要

＊燃料をそのままにしておくと、燃料タンクやキャブレター内のガソリンが変質し、次の始動が困難になります。

６. 作業が終わったら

洗車時の注意

高圧洗浄機の使用方法を誤ると人を怪我させたり、機械を損傷・故障させることがありますので高圧洗浄機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

注 意

＊機械を損傷させないように、洗浄ノズルを拡散にし、２m以上離して洗車してください。もし直射にしたり、不適切な近距離から洗車すると、

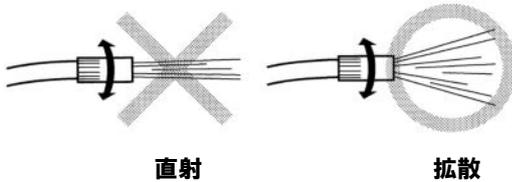
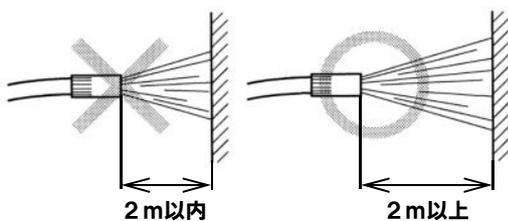
１．電気配線部被覆の破損・断線により、火災を引き起こすおそれがあります。

２．機械の破損・損傷・故障の原因となります。

例）（１）シール・ラベルの剥がれ。

（２）電子部品・エンジン・トランスミッション室内・安全キャブ室内等への浸水による故障。

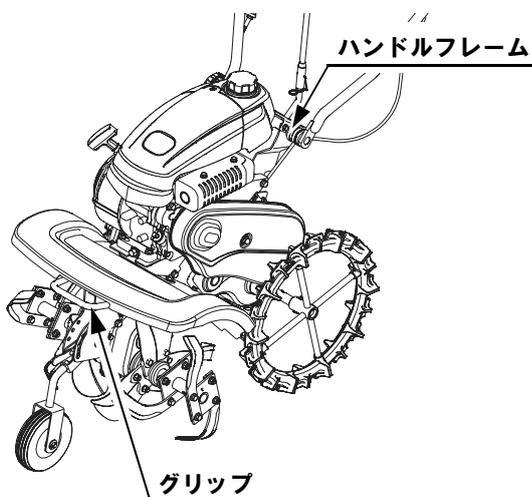
（３）タイヤ・オイルシール等のゴム類、樹脂類、ガラス等の破損。

（４）塗装・メッキ面の皮膜剥がれ。

7. ロータリ専用機を運搬するとき

警告

＊ 積込み・積降ろしは、平坦で交通の邪魔にならない安全な場所で行ってください。
＊ アユミ板はすべり止めのついた機体重量に耐えるもので、トラックの荷台の高さ「１」に対し、アユミ板の長さ「４以上」のものを使用し、確実に固定してください。
＊ 足元に注意し、車速は最低速で上りは〔前進〕、下りは〔後進〕で行ってください。
＊ 途中で主クラッチを切ったり、変速操作を絶対にしないでください。落下・転倒のおそれがあります。
＊ デフロックレバーは〔直進〕の位置にしてください。〔旋回〕の位置にすると思わぬ方向に進むことがあり危険です。 KHR350M
＊ トラックは、荷台に天井がない車を使用してください。首や体を挟まれるおそれがあります。
＊ トラックでの運搬時は、タンク内のガソリンの量を、積込み・積降ろしに必要な最低量とし、残りのガソリンは、法に定められたタンクに移して運搬してください。火災のおそれがあります。
＊ トラックでの運搬時は、機体を持上げて積込みしないでください。腰を痛めたりロータリを落下させるなどの傷害のおそれがあります。

■自動車（トラック）への積込み、運搬

1．トラックを平坦な場所に止め、駐車ブレーキをかけます。
2．アユミ板を確実に固定します。
3．アクセルレバーは〔**低**〕の位置で、上りは変速〔**１**〕で、下りは変速〔**後進**〕にします。
4．機体はロープで確実に固定します。
5．機体にロープを掛けるときは、ハンドルフレームのパイプ部・グリップの２箇所を固定してください。

6．燃料コックレバーは〔**停止**〕にします。
7．雨天時には、エアクリーナの吸込口にカバーをかぶせてください。

重要

＊ロープをかけるとき、変速レバーやカバー、小物部品にロープが触れないように気をつけてください。破損したり機能が損なわれるおそれがあります。
＊雨天時にエアクリーナの吸込口にカバーをかぶせないで運搬すると、雨水や砂ホコリが入りエアクリーナ性能が低下します。
＊燃料コックレバーを〔運転〕位置で運搬するとキャブレター内でガソリンがオーバーフローし、エンジン始動が困難となります。また、クランクケース内にガソリンが流入することもあります。

付表

主要諸元

区分	項目			ヘルパー KHR350M	ヘルパー KHR350
型式名				ヘルパー KHR350M	ヘルパー KHR350
大きさ	全　　長　(mm)			1235(収納：920)	1235(収納：920)
大きさ	全　　幅　(mm)			540	540
大きさ	全　　高　(mm)			1095(収納：710)	1095(収納：710)
質量　(装備)　(kg)				62	60
機関	銘柄　型式名			FJ100D	FJ100D
機関	種　　類			空冷4サイクル傾斜型OHVガソリンエンジン	空冷4サイクル傾斜型OHVガソリンエンジン
機関	定格出力(kW【PS】)/定格回転数(rpm)			1.6【2.1】/3600	1.6【2.1】/3600
機関	総　排　気　量　cc(L)			98(0.098)	98(0.098)
機関	燃料・タンク容量　(L)			自動車用無鉛ガソリン　0.8	自動車用無鉛ガソリン　0.8
機関	エンジンオイル容量　(L)			0.46	0.46
機関	点　火　方　式			無接点式マグネト点火(TIC方式)	無接点式マグネト点火(TIC方式)
機関	始　動　方　式			リコイルスターター式	リコイルスターター式
伝導方式	機　関　～　第1軸			Vベルト(A35インチ　1本)	Vベルト(A35インチ　1本)
伝導方式	第1軸　～　車　軸			ギヤー	ギヤー
伝導方式	第1軸　～　ロータリ			ギヤー、チェン	ギヤー、チェン
主クラッチ　形式・操作方法				ベルトテンション式　デッドマン	ベルトテンション式　デッドマン
操向クラッチ(旋回用)　形式・操作方法				デフ式(ロック付)　レバー切換え方式	デフ式(ロックなし)
作業切替(正正転／正逆転)　形式・操作方法				クラッチ式　レバー切換え方式	なし
ミッション潤滑方式				飛沫式	飛沫式
オイル種類・潤滑油量　(L)				ギヤオイル#80又は#90　(2.8)	ギヤオイル#80又は#90　(3.1)
変速機	形　　式			選択摺動式	選択摺動式
変速機	操　作　方　法			変速レバー	変速レバー
変速機	変　速　段　数			移動：前進2段、後進1段　耕耘：作業1	移動：前進2段、後進1段　耕耘：作業1
走行部	車　　輪			ゴムラグ車輪(φ380)	ゴムラグ車輪(φ380)
走行部	輪　　距　(車輪の芯間,mm)			439	439
走行部	車　　軸　(径×長さ,mm)			丸軸φ20×軸端部133.5	丸軸φ20×軸端部133.5
走行部	走行速度 (km/h【m/min】)〔エンジン回転数3600rpm〕	前　進	1速	0.77【12.8】	0.77【12.8】
走行部		前　進	2速	2.78【46.3】	2.78【46.3】
走行部		前　進			
走行部		後　進	1速	1.01【16.8】	1.01【16.8】
走行部		後　進			
ロータリ	種　　類			耕うん用	耕うん用
ロータリ	駆　動　方　式			センタードライブ式	センタードライブ式
ロータリ	変速段数　(回転数rpm)〔エンジン定格回転時〕			正正転/正逆転(143)	正逆転(143)
ロータリ	耕　う　ん　幅　(mm)			500	500
ロータリ	爪　回　転　径　(mm)			φ280	φ280
ロータリ	耕　う　ん　刃			正逆爪・耕耘ナタ爪	耕耘ナタ爪

※この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

付表

標準付属部品

品　名	数量／台	備　考
プラグレンチ(19×21)	1	
プラグレンチ用バー	1	
排油チューブ	1	
取扱説明書	1	
保証書	1	

主な消耗部品一覧

	品　名	品　番	数　量	備　考
1	Ｖベルト　SA-35	285660000105000	1	
2	クラッチケーブルコンプ	280050000358001	1	
3	コード(ストップスイッチ)	280050000356001	1	
4	デフロックケーブルコンプ	280050000353001	1	KHR350M
5	ケーブル、コンプ(スロットル)	280050000355001	1	
6	アタマツキピン	0512270835	2	タイヤ取付用
7	スナップピン	0551670800	2	タイヤ取付用
8	オイルシール	282130000247000	2	車軸
9	オイルシール	0950355209	2	ホルダギヤ
10	オイルシール	0950203007	2	耕うん軸
11	キー	0571200720	2	正逆爪軸（内側）取付用
12	ボルト	037115248452001	2	正逆爪軸（内側）取付用
13	バネザガネ	0451270100	2	正逆爪軸（内側）取付用
14	セイギャクツメ　W23	286170000453000	4	KHR350M
15	セイギャクツメ　W23C	285675000273005	2	KHR350M
16	ボルト	0115370820	12	爪取付用、M8　KHR350M
17	ナット	0211470080	12	爪取付用、M8　KHR350M
18	バネザガネ	0451270080	12	爪取付用、M8　KHR350M
19	ナタツメ　T101　ミギ	280050000278000	4(7)	
20	ナタツメ　T101　ヒダリ	280050000277000	4(7)	
21	ボルト	0141370820	16(28)	爪取付用、M8
22	ナット	0261070080	16(28)	爪取付用、M8
23	アタマツキピン	0512270835	2	爪軸（外側）取付用
24	スナップピン	0551570800	2	爪軸（外側）取付用

※数量の()内はKHR350仕様。

トラブルと処置

■エンジンが始動しないとき

原　因	処　置
●始動の手順が間違っている。	正しい順序で始動する。（１８ページの**【エンジンの始動のしかた】**を参照）
●タンクにガソリンを入れたまま１カ月以上保管し、ガソリンが劣化した。	タンク・キャブレター内の劣化したガソリンを排出し、新しいガソリンを入れる。（３３ページの**【燃料の抜取り】**を参照）
●フィルタポットに水やゴミが混入している。	ポットを清掃する。（２６ページの**【燃料フィルタの清掃】**を参照）
●チョークを〔始動〕の状態でリコイルを何回も引き過ぎ、ガソリンを吸い過ぎた。	チョークを〔運転〕に戻し、リコイルを引くか点火プラグを外して乾燥させる。
●エンジン停止後、燃料コックを〔停止〕の位置にしないで本機を後ろに倒したり、車両で運搬したため、キャブレターがオーバーフローした。	クランクケース内にガソリンが混入していたら新しいエンジンオイルと交換する。（２４ページの**【エンジンオイルの交換】**を参照）
●エアクリーナエレメントが目詰まりしている。	エレメントを外して清掃する。または新しいものと交換する。（２５ページの**【エアクリーナエレメントの清掃】**を参照）
●点火プラグの火花が弱い、飛ばない。	点火プラグを外して付着したカーボンを清掃する。または新しいものと交換する。（２６ページの**【点火プラグの調節・清掃・交換】**を参照）

■エンジン回転が上がらない、不安定、出力が不足するとき

原　因	処　置
●エンジンが暖まってもチョークを〔始動〕の状態で運転している。	チョークを〔運転〕に戻す。
●フィルタポットに水やゴミが混入している。	ポットを清掃する。（２６ページの**【燃料フィルタの清掃】**を参照）
●エアクリーナエレメントが汚れている。	エレメントを外して清掃する。（２５ページの**【エアクリーナエレメントの清掃】**を参照）
●スロットルケーブルの引っ張りが不足している。	お買い上げいただいた購入先に依頼する。

■エンジンが振れる、異音が発生する

原　因	処　置
●エンジン取付けボルトが緩んでいる。	取付けボルトを締め直す。

■ハンドルのガタが多い

原　因	処　置
●ハンドル回転部のガタが多い。	ハンドルの固定握りを締め直す。

上記の処置をしてもトラブルが直らないときは、購入先にご相談ください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後９年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因となります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心してご使用いただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業効率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。

品番：280050000551000

関東農機株式会社

本社工場／本社営業所　〒323-0819 栃木県小山市横倉新田 493
TEL 0285(27)3271(代) FAX 0285(27)4627

鏡石工場／福島営業所　〒969-0403 福島県岩瀬郡鏡石町久来石大町 57
TEL 0248(62)4131(代) FAX 0248(62)4133

盛岡工場／東北営業所　〒028-4132 岩手県盛岡市玉山区渋民字岩鼻 20-55
TEL 019(683)1911(代) FAX 019(683)1119

九州営業所　〒561-0894 熊本県八代市上片町 1351
TEL 0965(31)0730(代) FAX 0965(31)0760

・製品のご相談は下記の販売店へ